



SPARC Enterprise™ M4000/M5000サーバ プロダクトノート

XCP 1082版

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および / または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. または関連会社の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス



実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限りです。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもとの第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。

目次

はじめに	ix
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのサポートについて	ix
ソフトウェアリソース	ix
マニュアルへのアクセス	x
ご意見をお寄せください	xi
XCP 1082 に関する一般的な情報	1
サポートされるファームウェアおよびソフトウェア	1
Solarisパッチに関する情報	2
Solaris 10 5/08用パッチ	3
Solaris 10 8/07用パッチ	3
Solaris 11/06用パッチ	3
XCP 1082へのアップデート	4
XSCFファームウェアのリセット	4
XCP 104xを使用している場合	4
機能の問題と制限	5
SPARC64 VIIプロセッサに関する制限	5
一般的な機能の問題と制限	5
ハードウェアに関する情報	8

本体装置設置に関するお願い	8
200V電源を使用する場合の注意事項	9
DVDドライブ／ディスクの使用について	9
USBメモリの使用について	9
電源再投入時の注意	10
ハードウェアに関する問題と回避方法	10
Sun Crypto Accelerator 6000 Cards	10
ハードウェアマニュアルの変更予定	11
『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル』の変更予定	14
モードスイッチの意味	14
本体装置の電源切断	14
PCIカードの取付け	16
DC-DCコンバーターの交換	17
UPSコントローラー（UPC）の分岐接続	21
接続できる場合	22
接続できない場合	23
ソフトウェアに関する情報	24
XCPに関する問題と回避方法	24
XCP 1082で発生しうる問題	25
XCP 1082で解決された問題	27
XCP 1082以前で解決された問題	28
Solaris OSに関する問題と回避方法	40
すべてのバージョンのSolaris OSに関連する問題	40
Solaris 10 5/09で解決された問題	44
Solaris 10 10/08で解決された問題	45
Solaris 10 8/07で解決された問題	51
ソフトウェアマニュアルの変更予定	56

システム内の縮退メモリの識別	59
システムボード上の異なるメモリサイズの識別	59
showdevicesコマンドを使用する	59
prtdiag コマンドを使用する	60
ターゲットボードのカーネルメモリの識別	61
CPUのアップグレード	62
SPARC64 VIIのCPUモジュールを新規ドメインとして増設する	62
SPARC64 VIのCPUモジュールをSPARC64 VIIのCPUモジュールへアップグレードする	65
SPARC64 VIIのCPUモジュールを増設し、既存ドメインへ追加する場合	68

はじめに

本書では、SPARC Enterprise™ M4000/M5000サーバ、ソフトウェア、および出版後に見つかったドキュメントに関する最新の情報を説明します。

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのサポートについて

技術サポート

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのドキュメントで取り上げられていない技術上の問題または質問がありましたら、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバにはSolaris™ オペレーティングシステム (OS) およびSun Java™ Enterprise System softwareがプレインストールされています。

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのソフトウェアリソースについては、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

注 – 最新のパッチ情報は以下を参照してください。

日本語サイト

<https://software.fujitsu.com/jp/security/products-others/unix/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/global/support/software/security/products-s/patch-info/>

インストールに関する情報とREADMEファイルもパッチと一緒にダウンロードされます。

マニュアルへのアクセス

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのインストール、管理、使用のための手順は、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのマニュアルセットに示されています。マニュアルセットは、以下のウェブサイトからダウンロード可能です。

日本語サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

注 – 本書で説明する情報は、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのマニュアルセットの情報よりも優先されます。

Solaris 関連のマニュアル

<http://www.sun.com/documentation>

ご意見をお寄せください

本書に関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を下記URLの『お問い合わせ』から送付してください。

SPARC Enterpriseマニュアルのサイト:

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

XCP 1082 に関する一般的な情報

ここでは、XCP 1082に関する一般的な情報について説明します。

- 「サポートされるファームウェアおよびソフトウェア」
- 「XCP 1082へのアップデート」
- 「機能の問題と制限」

サポートされるファームウェアおよびソフトウェア

本リリースでは、以下のファームウェアおよびオペレーティングシステムがサポートされています。

表 1 ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

ファームウェアおよびオペレーティングシステム	バージョン
XSCF Control Package (XCP)	1082
Solaris™ Operating System	
SPARC64™ VIプロセッサ搭載	Solaris 10 11/06以降、および必須パッチ
SPARC64™ VIIプロセッサ搭載	Solaris 10 8/07以降、および必須パッチ

注 – Solaris 10 8/07インストール用DVD では、SPARC64 VIIプロセッサを搭載したドメインをブートできません。SPARC64 VIIプロセッサを搭載したドメインに対して新規にSolaris OSをインストールする場合は、Solaris 10 5/08以降のインストール用DVDを使用してください。

XCPは、以下のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/download/firmware/>

XSCF Webは、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Webの動作が確認されているウェブブラウザは、表 2のとおりです。

表 2 動作確認済みのウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Microsoft® Internet Explorer	6.0および7.0
Netscape Navigator™*	7.x
Firefox (Solaris 10)	2.0

* Netscapeブラウザは公式なサポートが終了しています。XSCF Webでは、Internet ExplorerまたはFirefoxを使用することをお勧めいたします。

Solarisパッチに関する情報

SPARC Enterprise™ M4000/M5000 サーバでは、以下の必須パッチが提供されています。

その他のSolaris OSの情報については、40ページの「[Solaris OSに関する問題と回避方法](#)」を参照してください。

注 – ixページの「[ソフトウェアリソース](#)」を参照し、最新パッチの入手方法を確認してください。インストールに関する情報とREADMEファイルがパッチと一緒にダウンロードされます。

注 – パッチは以下に記載されている順番に適用してください。パッチを含めたCPUのアップグレード手順については、62ページの「[CPUのアップグレード](#)」を参照してください。

Solaris 10 10/08 OS以降を使用している場合は、必要なパッチはありません。

Solaris 10 5/08用パッチ

Solaris 10 5/08 OSを使用しているすべてのSPARC Enterprise M4000/M5000サーバには、以下のパッチが必要です。

- 137137-09

Solaris 10 8/07用パッチ

SPARC64 VIIプロセッサが搭載されたサーバ上で、Solaris 10 8/07 OSを使用している場合には、以下のパッチが必要です。

- 119254-51 以降
- 125891-01 以降
- 127755-01 以降
- 127127-11

Solaris 11/06用パッチ

Solaris 10 11/06 OSを使用している場合は、以下のパッチが必要です。

これらの必須パッチをインストールした場合でも、Solaris 10 11/06 OSではSPARC64 VIIプロセッサはサポートしません。

- 118833-36 (125100-04の前に118833-36をインストールしてください。)
- 125100-04以降
- 120068-03以降
- 123839-07以降
- 125424-01以降
- 125075-01以降
- 125670-02以降

Emulex PCI Express (PCIe)カードのパッチ

以下のEmulexカードは、パッチ120222-26で提供されるドライバが必要です。

- XSEFC402AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA
- XSEFC401AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA

XCP 1082へのアップデート

XCPを1082へアップデートする場合には、現在使用しているXCPのバージョンによって、以下の点に注意してください。

なお、XCP 1050以降からXCP 1082以降へのアップデート手順については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

XSCFファームウェアのリセット

ファームウェアをXCP 1082にアップデートしたあとは、`rebootxscf(8)`コマンドを使用して、必ずXSCFをリセットしてください。

XCP 104xを使用している場合

- XCP 1082へ直接アップデートすることはできません。
いったん、XCP 1050からXCP 1070までのいずれかの版数へアップデートしてから、XCP 1082へアップデートしてください。XCP 1050からXCP 1070までのいずれかのバージョンへアップデートする手順は、各版数のプロダクトノートを参照してください。
- "admin" という名前のアカウントを削除してください。
"admin" という名前のアカウントは、XCP 1050以降へのアップデートの前に削除しなければなりません。このアカウント名は、XCP 1050以降用に予約されます。アカウントを削除するには、`deleteuser(8)`コマンドを使用してください。

機能の問題と制限

ここでは、本リリース時点でわかっている問題および制限事項について説明します。

SPARC64 VII プロセッサに関する制限



注意 – SPARC64 VII プロセッサを SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバに搭載する前に、XCP ファームウェアと Solaris OS のアップデートを完了させておく必要があります。

一般的な機能の問題と制限



注意 – 動的再構成 (DR; Dynamic Reconfiguration) およびホットプラグに関する問題については、40 ページの「[Solaris OS に関する問題と回避方法](#)」を参照してください。

- ZFS ファイルシステムを使用したドメインは DR を行うことができません。
- SPARC Enterprise M4000/M5000サーバは、停止交換で使用します。CPUモジュール (CPUM)、メモリボード (MEMB)、I/Oユニット (IOU) およびXSCFユニットの活性交換はサポートされていません。
- XSCF ブラウザユーザーインターフェース(以降、XSCF Web)では、PCIボックス管理機能はサポートされていません。
- `showenvironment(8)` コマンドの電力モニタ機能(`power`オペランド)は、現時点ではサポートされていません。
- `showenvironment(8)` コマンドのエアフローインディケータ(`air`オペランド)は、現時点ではサポートされていません。
- ログアーカイブ機能は、現時点ではサポートされていません。
- XSCFをドメインのNTPサーバとする場合は、XSCFが参照するDNSサーバおよびNTPサーバのICMPプロトコルをブロックしないように設定してください。
- 外部電源制御装置(F7973RC1)の外部電源制御インターフェースを使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
 - OSパニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (*CPUN/RTNU)
 - 本体装置ハードウェア異常信号(電源異常、温度異常、ファン異常) (*ALARM)

- PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP cards (1027A-Z/X1027A-Z) には、下記の制限が適用されます。
 - 各ドメインで、カードを3枚まで使用することができます。
 - PCIボックスで、これらのカードを使用することはできません。
- PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP cards (4447A-Z/X4447A-Z) には、下記の上限が適用されます。
 - PCIボックス内ではカードを4枚（PCIe I/Oポートごとに2枚）まで使用することができます。
 - SPARC Enterprise M4000サーバのドメイン内では、カードを4枚まで使用することができます。
 - SPARC Enterprise M5000サーバのドメイン内では、カードを8枚まで使用することができます。
- ドメインはXSCFをNTPサーバとすることを推奨します。この場合、以下の注意が必要です。
 - XSCFは、外部NTPサーバに接続しなければなりません。
 - XSCFのほか、1つまたは複数のNTPサーバをドメインに接続する場合は、XSCFに指定したNTPサーバと同じサーバに接続してください。

NTPの詳細については、当社技術員にお問い合わせください。NTP設定の詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

- 以下の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。
`root`、`bin`、`daemon`、`adm`、`operator`、`nobody`、`sshd`、`rpc`、`rpcuser`、`ldap`、`apache`、`ntp`、`admin`、`default`
- XSCF WebではFirefox 3はサポートされていません。
- XSCF Webを使用する場合は、ブラウザのキャッシュ機能を無効にしてください。キャッシュを有効にしておくと、キャッシュされた古いデータがWebページに表示されてしまうことがあります。キャッシュを無効にする方法については、ご使用のブラウザによって、以下のように設定してください。
 - Internet Explorer 6および7:
 [ツール]-[インターネット オプション]-[詳細設定]タブにある「暗号化されたページをディスクに保存しない」をチェックします。
 - Netscape 7.1以降:
 [編集]-[設定]-[詳細]-[キャッシュ]-[キャッシュにあるページとネットワーク上のページの比較]の項目で「ページにアクセスするたび」を選択します。
 - Firefox 2:
 アドレス欄に「`about:config`」と入力し、フィルタ欄に「`cache`」と入力します。リストにある「`browser.cache.check_doc_frequency`」の設定値を「1」に変更します。

- XSCF Webを使用し、XCPのインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上にSession ID errorが表示されることがあります。また、Autologout設定でタイムアウト時間を30分以上で指定すると、ファームウェアアップデートの際にInternal Server Errorが表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Webに接続しなおしてください。
- XSCF Webを使用する時、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合は、プラグインを削除する、またはポップアップブロック設定を無効にしてください。
- XSCF-LANはオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LANと全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE802.3の規約によって、XSCF-LANは半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。XSCF-LANと接続するネットワーク機器は、必ずオートネゴシエーションに設定してください。
- CODボードに対してDR操作をしているときに、addcodlicense(8)、deletecodlicense(8)、setcod(8)コマンドを実行しないでください。
- restoredefaults(8) コマンドは、現時点ではサポートされていません。
- snapshot(8) コマンドの -e、-P、-l オプションは現時点ではサポートされません。

ハードウェアに関する情報

ここでは、SPARC Enterprise M4000/M5000サーバのハードウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- 「本体装置設置に関するお願い」
- 「200V電源を使用する場合の注意事項」
- 「DVDドライブ/ディスクの使用について」
- 「USBメモリの使用について」
- 「電源再投入時の注意」
- 「ハードウェアに関する問題と回避方法」
- 「ハードウェアマニュアルの変更予定」
- 「UPSコントローラー（UPC）の分岐接続」

本体装置設置に関するお願い

SPARC EnterpriseM4000/M5000サーバに添付している電源ケーブルのプラグ（NEMA L6-20）の外形寸法は、以下のとおりです。

プラグが干渉しないことを、設置先の入力電源環境にて、事前にご確認ください。

- プラグ接続部外径：50 mm
- プラグカバー部最大外径：57 mm
- 接続面からのプラグカバー部長さ：69.9 mm

200V電源を使用する場合の注意事項

B型プラグを持つ本体装置においては、本体装置外に20Aの過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー（NFB）やヒューズなどを使用して、20Aの過電流保護を行ってください。B型プラグとは、平行2極接地極付プラグ以外のNEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。

DVDドライブ／ディスクの使用について

本サーバに搭載されているDVDドライブを使用する際の注意事項があります。次のWebサイトから「SPARC EnterpriseでのDVDドライブ／ディスクの使用について」を参照してください。

URL:

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

USBメモリの使用について

dumpconfig(8)、restoreconfig(8)、snapshot(8)コマンド実行時に、データの保存先としてUSBメモリを指定する場合は、あらかじめ、媒体となるUSBメモリをご用意ください。

なお、保存されたデータにはシステムに関する情報が含まれています。USBメモリをご利用になる場合には、セキュリティ保持の観点から、データが保存されたUSBメモリの管理について留意が必要となります。

現在販売されているすべてのメーカーのUSBメモリに対して、XSCFとの接続性および動作を保証しているわけではありません。ご使用のUSBメモリによっては、XSCFファームウェアのエラーやリセットなどの異常が発生する場合も考えられます。そのような異常が発生した場合には、ただちに、USBメモリの使用を中止してください。

XSCF用USBポートにUSBメモリを接続する場合は、直接、USBポートにUSBメモリを接続してください。USBハブやUSB延長ケーブルなどを介して接続すると、エラーの要因となる場合があります。

電源再投入時の注意

電源ケーブルの引き抜き、または分電盤のブレーカーによって、本体装置の電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。

ハードウェアに関する問題と回避方法

Sun Crypto Accelerator 6000 Cards

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000カードドライバの正しいバージョンを使用していない場合は、SCA 6000カードのホットプラグ操作で、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバがパニックまたはハングアップを起こします。必要なbootstrapをアップデートしたあとのファームウェアとSCA 6000ドライバのバージョン1.1によって、ホットプラグ操作がサポートされます。SCA6000ドライバのバージョン1.0はホットプラグをサポートしていないため、ホットプラグ操作を行わないでください。

ハードウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのハードウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のハードウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

表 3 では、マニュアルの変更予定を示します。

表 3 ハードウェアマニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ 設置計画マニュアル	2-11	「表2.4 電源コードとコネクタ形状」 以下の注記を追加します。 注 - B型プラグを持つ本体装置においては、本体装置外に 20A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、20A の過電流保護を行ってください。B型プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ インストールガイド	2-5	「表2.3 電源プラグとコンセント形状」 以下の注記を追加します。 注 - B型プラグを持つ本体装置においては、本体装置外に 20A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、20A の過電流保護を行ってください。B型プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。
	3-6	「3.6.2 XSCFユニットの初期化」 設定項目の中にドメイン/ サービスプロセッサ間通信プロトコル(DSCP)が明記されます。
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	2-9	「表2.5 スイッチ (オペレーターパネル)」 モードスイッチ (Serviceモード) の説明について、「本体装置の遠隔電源制御および自動電源制御は、Service モードでは無効にできるため、意図しない電源投入を防ぐことができます。」と記載されていますが、正しくは「Service モードにすると、本体装置に対するRCIによるリモート電源制御や自動電源制御を無効にできるため、保守時に、意図しないで電源が投入されてしまうことが防げます。ただし、電源の切断については、自動電源制御を無効にできません。」です。
	2-10	「表2.6 モードスイッチの意味」を変更します。14ページの「モードスイッチの意味」を参照してください。

表 3 ハードウェアマニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	3-1	<p>「3.1.1 テープドライブユニットのクリーニング」以下のとおり変更します。</p> <p>テープドライブユニットのクリーニングには、テープドライブユニットのクリーニングキットを使用します。クリーニングランプが必要以上に早期に点灯することを避けるため、以下の保守規定に従ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • テープドライブユニットは、5～24時間の使用に対して1回、または週に1回の割合で、クリーニングしてください。 • テープドライブユニットを使用しない場合も、月に1回クリーニングしてください。 • テープドライブユニットのクリーニングランプ(左側)が点灯もしくは点滅したときは、その都度クリーニングしてください。 • 新しいデータカセットに交換する前に、クリーニングしてください。 • クリーニングカセットは、カセット内のテープがすべて右側に巻き取られている場合、あるいはクリーニングテープをセットしても3つのランプでクリーニング終了(消灯、点灯、点滅)が通知されている場合は、交換してください。 • 電源を切るときは、カセットを取り出してください。カセットを入れたままで電源を切ると、テープの寿命が短くなったり、バックアップに失敗したりすることがあります。 <p>注 - クリーニングを行っても、すぐにクリーニングランプが点滅する場合は、データカセットが傷んでいる可能性があります。新しいデータカセットに交換してください。</p>
	4-9	<p>4.4.1 「ソフトウェアによる本体装置の電源切断」を変更します。14ページの「ソフトウェアによる本体装置の電源切断」を参照してください。</p>
	4-10	<p>4.4.3 「手動による本体装置の電源切断」を変更します。16ページの「手動による本体装置の電源切断」を参照してください。</p>
	6-21	<p>「シングルランク」は「1ランク」、「デュアルランク」は「2ランク」と読み替えてください。</p>
	8-6	<p>「8.2.2 PCIカードの取付け」の手順4を変更します。16ページの「PCIカードの取付け」を参照してください。</p>
	8-9	<p>「8.4 I/O ユニットのDC-DC コンバーターの交換」を変更します。17ページの「DC-DCコンバーターの交換」を参照してください。</p>

表 3 ハードウェアマニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サ ービスマニュアル	8-10, 11	<p>「8.4.2 I/O ユニットのDC-DC コンバーター (DDC_A #0 またはDDC_B#0) の取外し」</p> <p>手順3の最後の文章を、以下のとおり変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> I/OユニットのDC-DCコンバーターにラベルが付いている場合は、そのラベルを隅の方からはがします。ラベルは、交換用のI/OユニットのDC-DCコンバーターで再利用することができます。 <p>手順4を、以下のとおり変更します。</p> <p>4. DC-DC コンバーターをスロットから抜き、ESD マットのの上に置きます。</p> <p>DC-DCコンバーターは、DC-DCコンバーターライザーのスロットに取り付けられているか、または、I/Oユニットに直接取り付けられています。</p>
	8-11	<p>「8.4.3 I/O ユニットのDC-DC コンバーター (DDC_A #0 またはDDC_B#0) の取付け」を変更します。19ページの「DC-DCコンバーター (DDC_A #0 またはDDC_B#0) の取付け」を参照してください。</p>
	8-15	<p>「8.4.6 I/O ユニットのDC-DC コンバーターライザーの取外し」</p> <p>手順5を、以下のとおり変更します。</p> <p>5. DC-DCコンバーターをDC-DCコンバーターライザーまたはDC-DCコンバーター抑え機構のスロットから抜き、両方をESDマットの上に置きます。</p>
	8-16	<p>「8.4.7 I/O ユニットのDC-DC コンバーターライザーの取付け」</p> <p>手順2を、以下のとおり変更します。</p> <p>2. DC-DC ライザーをゆっくりと押し下げ、I/O ユニットのソケットに装着します。</p>

『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービス マニュアル』の変更予定

次の情報は、『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービス マニュアル』の情報よりも優先されます。

モードスイッチの意味

ここでは、2-10ページの「表2.6 モードスイッチの意味」を変更します。

表 2.6 モードスイッチの意味

機能 状態の定義	モードスイッチ	
	Locked	Service
Break 信号の受信抑止	有効。setdomainmode を使用してドメインごとにBreak 信号の受信/受信抑止を指定可能。	無効
POWER スイッチによる電源投入/切断	電源投入のみ有効	有効
リモートの電源投入/切断	RCIによる電源投入/切断	無効
	自動電源制御による電源投入/切断	電源切断のみ有効

本体装置の電源切断

ソフトウェアによる本体装置の電源切断

ここでは、4-9ページの「4.4.1 ソフトウェアによる本体装置の電源切断」を変更します。

1. 本体装置の電源を切断することをユーザーに通知します。
2. 必要に応じて、システムファイルとデータをテープにバックアップします。
3. XSCF シェルにログインして、poweroff コマンドを入力します。

```
XSCF> poweroff -a
```

poweroff コマンドを使用すると、次のアクションが実行されます。

- Solaris OS がクリーンにシャットダウンされる。
- 本体装置の電源が切られて、本体装置がスタンバイモードになる（XSCF ユニットおよび1つのファンは電源が入ったままになります）。

詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

4. XSCF のステータスLED の状態を確認します。
POWER LED が消灯している必要があります。
5. 入力電源からすべての電源コードを抜きます。



注意 – 電源コードを抜かないと電氣的障害が発生する可能性があります。本体装置の電源を完全に切断するには、すべての電源コードを抜く必要があります。

手動による本体装置の電源切断

ここでは、4-10ページの「4.4.3 手動による本体装置の電源切断」を変更します。

1. 本体装置の電源を切断することをユーザーに通知します。
2. 必要に応じて、システムファイルとデータをテープにバックアップします。
3. オペレーターパネル上のキースイッチを回してService の位置にします。
4. オペレーターパネルのPOWER スイッチを4 秒以上押して、完全に電源を切断します。
5. オペレーターパネルのステータスPOWER LED が消灯していることを確認します。
6. 入力電源からすべての電源コードを抜きます。



注意 – 電源コードを抜かないと電氣的障害が発生する可能性があります。本体装置の電源を完全に切断するには、すべての電源コードを抜く必要があります。

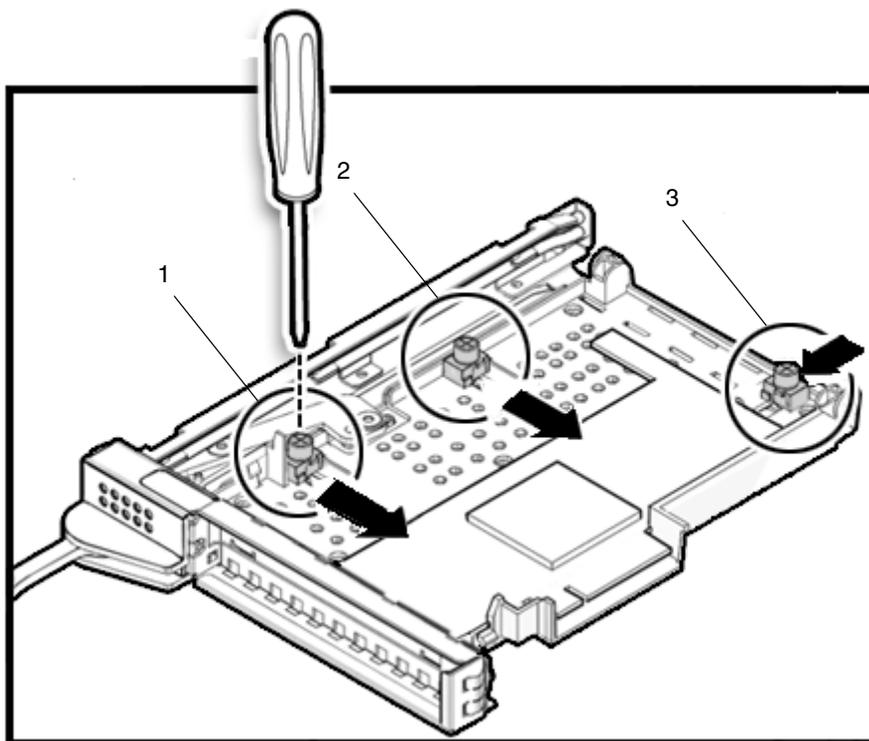
PCIカードの取付け

ここでは、8-6ページの「8.2.2 PCIカードの取付け」の手順4を変更します。

4. PCIカードが所定の位置にくるように調整可能な停止位置を移動し、ドライバーを使用して調整可能な停止位置を固定します。

注 – カードが正しく装着されるように、調整可能な停止位置をカードにぴったり合う位置にして、しっかりと固定する必要があります。
また、PCI カードは [図 8.6](#)の1→2→3の順に固定してください。

図 8.6 PCI カードの固定順序



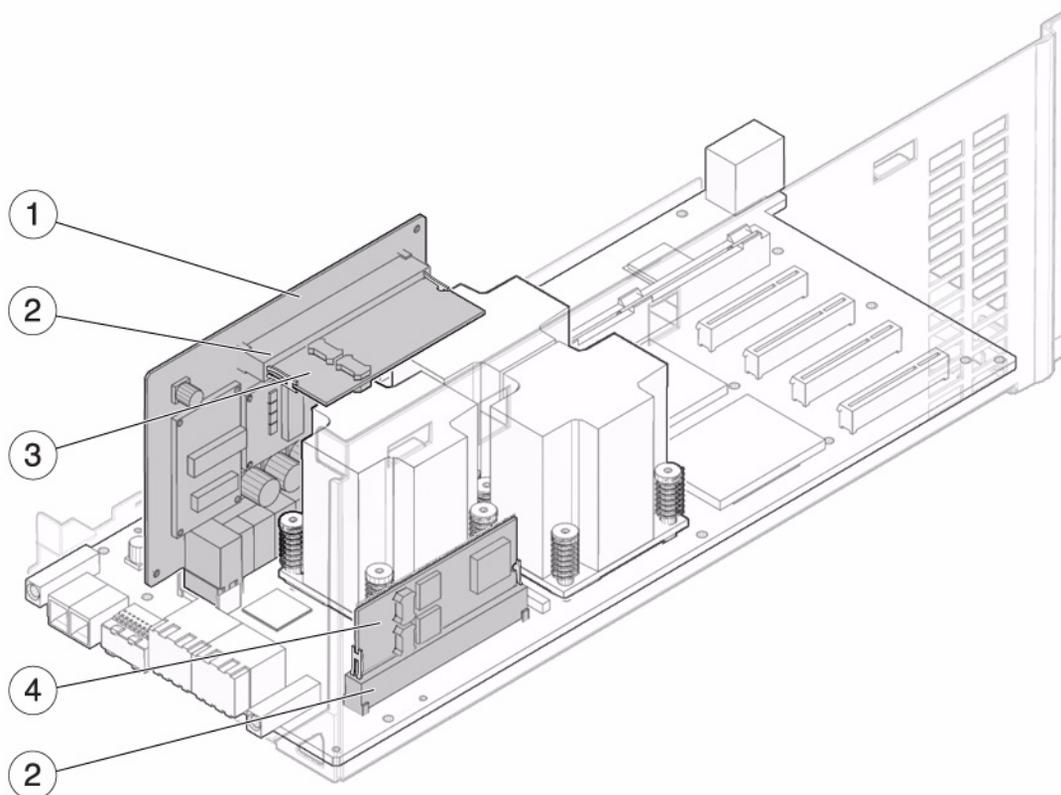
DC-DCコンバーターの交換

ここでは、8-9ページの「8.4 I/O ユニットのDC-DC コンバーターの交換」を変更します。

DC-DCコンバーターは、停止交換コンポーネントです。つまり、I/OユニットのDC-DCコンバーターを交換するには、本体装置全体の電源を切断し、電源コードを抜く必要があります。

図 8.7は、I/O ユニットのDC-DC コンバーター、DC-DC コンバーター抑え機構、DC-DC コンバーターライザーの位置を示します

図 8.7 I/O ユニットのDC-DC コンバーター、DC-DC コンバーター抑え機構、DC-DC コンバーターライザーの位置



位置番号	コンポーネント
1	DC-DC コンバーターライザー (DDCR)
2	DC-DC コンバーター抑え機構
3	DC-DC コンバーター (DDC_B#0)
4	DC-DC コンバーター (DDC_A#0)

DC-DCコンバーター（DDC_A #0 またはDDC_B#0）の取付け

ここでは、8-11ページの「8.4.3 I/OユニットのDC-DCコンバーター（DDC_A #0 またはDDC_B#0）の取付け」を変更します。



注意 - DC-DCコンバーターライザーのスロットに装着するDC-DCコンバーター（DDC_B#0）には、金属ヒートシンクが備わっています。I/Oボードのスロットに装着するDC-DCコンバーター（DDC_A#0）には、金属ヒートシンクが備わっていません。コンバーターを間違ったスロットに取り付けると、I/Oユニットに重大な損傷を与えます。

現在使用している本体装置で、I/OユニットのDC-DCコンバーター（DDC_B#0）にラベルが付いているかどうかを確認します。

図 8.9 DC-DCコンバーター（DDC_B#0）のラベル

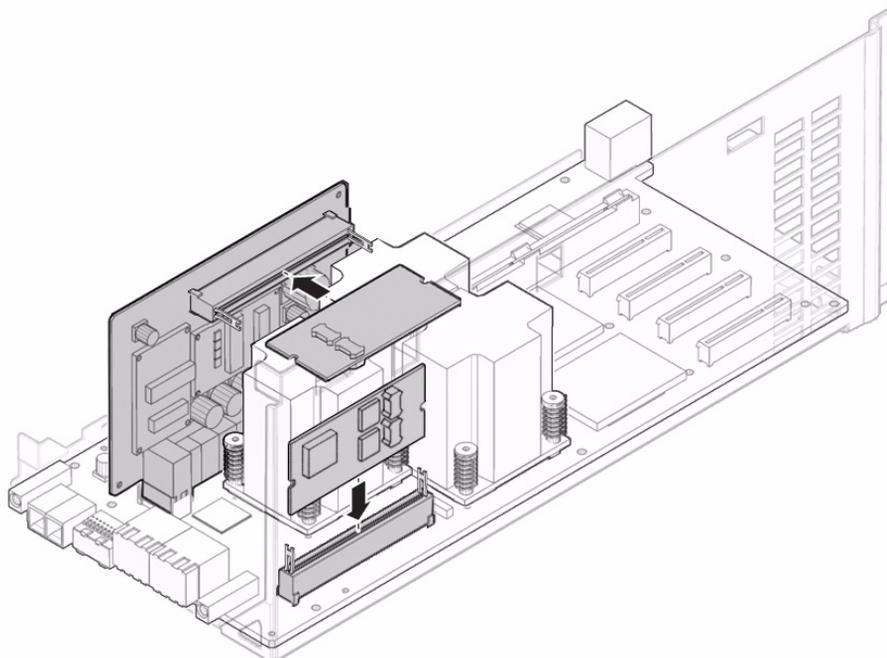


- I/OユニットのDC-DCコンバーターにラベルが付いていない場合は、**手順 1**に進みます。
 - I/OユニットのDC-DCコンバーターにラベルが付いている場合は、そのラベルを隅の方からはがします。ラベルは、交換用のI/OユニットのDC-DCコンバーターで再利用することができます。
1. 交換対象のDC-DCコンバーターをスロットから取り外します。
 2. 新しいDC-DCコンバーターをスロットに挿入します（[図 8.10](#)）。

3. DC-DCコンバーターをゆっくりと押し下げ、装着します。

注 - DC-DCコンバーターがDC-DCコンバーター抑え機構に取り付けられている場合は、DC-DCコンバーター抑え機構のサイドクリップがDC-DCコンバーターの切り欠きに取り付けられていることを確認します。

図 8.10 DC-DC コンバーターの取付け



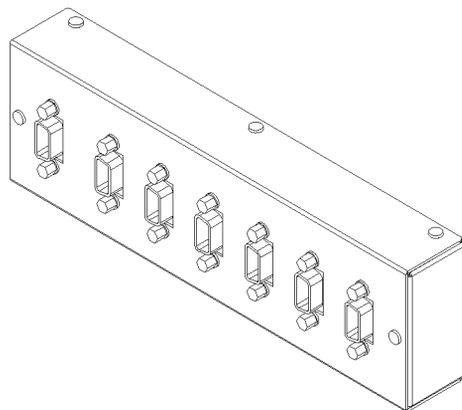
4. 金属ブラケットを元の位置に戻し、所定の位置に固定するための3つのねじを締めます。
ブラケットのねじを締める前に、小さいケーブルを再度接続します。
5. I/Oユニットのカバーを取り付けます。
6. No.2ドライバーを使用して、I/Oユニットの前面にある2つのねじを締めます。

UPSコントローラー（UPC）の分岐接続

UPC 6分岐コネクタを使用すると、最大6台の無停電電源装置（UPS）を接続できます。

UPC 6分岐コネクタの外観図を[図 1](#)に示します。

図 1 UPC 6分岐コネクタ



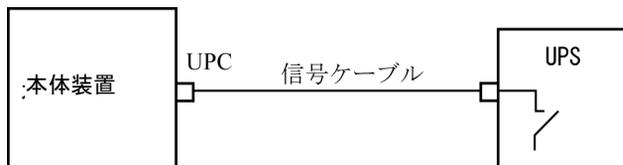
本体装置のUPCは、以下に説明している条件を満たせば、分岐コネクタを使用して複数台のUPSに接続できます。ここでは、本体装置のUPCの分岐接続の条件について説明します。

接続できる場合

UPSと本体装置が以下の接続形態の場合には、信号ケーブルを接続できます。

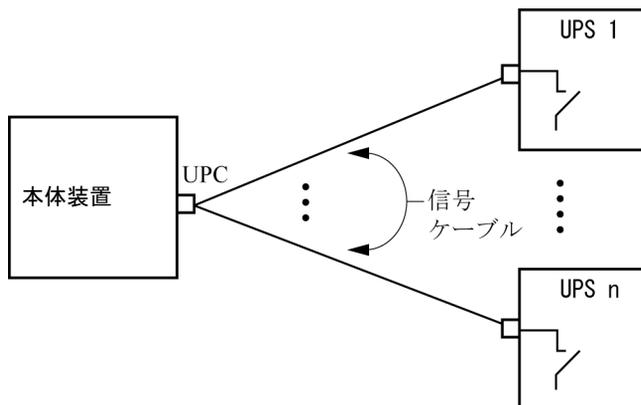
- 1台の本体装置に1台のUPSを接続する場合（図 2参照）
- 1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合（図 3参照）

図 2 UPS と本体装置との信号ケーブルの接続
(1台の本体装置に1台のUPSを接続する場合)



重要 – 1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合、本体装置からの送出信号（ER信号）の条件によっては、信号ケーブルが接続できないことがあります。この接続形態で接続する場合には、当社技術員にご相談ください。

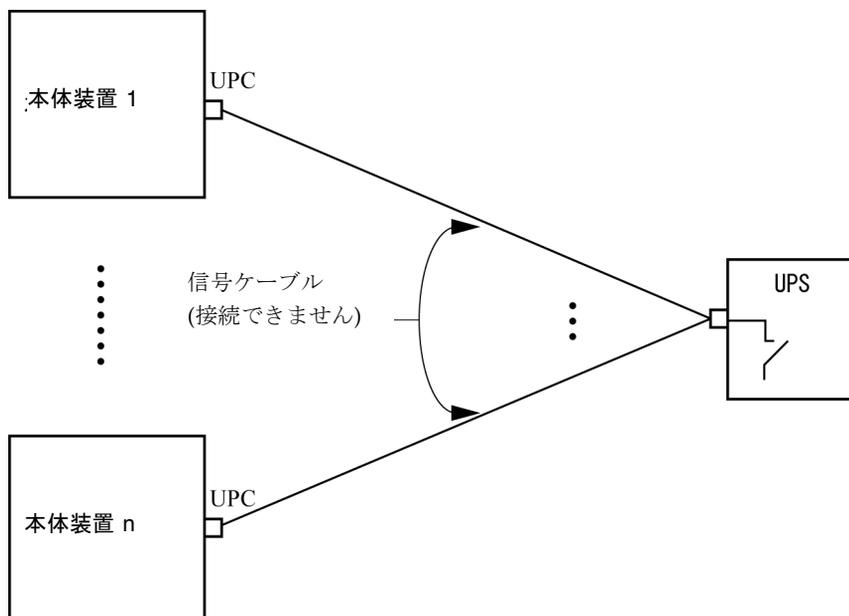
図 3 UPS と本体装置との信号ケーブルの接続
(1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合)



接続できない場合

複数台の本体装置に1台のUPSを接続する場合（図 4参照）、UPSと本体装置との信号ケーブルの接続はできません。

図 4 UPS と本体装置との信号ケーブルの接続ができない場合
(複数台の本体装置に 1 台の UPS を接続する場合)



ソフトウェアに関する情報

ここでは、SPARC Enterprise M4000/M5000サーバのソフトウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- [「XCPに関する問題と回避方法」](#)
- [「Solaris OSに関する問題と回避方法」](#)
- [「ソフトウェアマニュアルの変更予定」](#)
- [「システム内の縮退メモリの識別」](#)
- [「システムボード上の異なるメモリサイズの識別」](#)
- [「ターゲットボードのカーネルメモリの識別」](#)
- [「CPUのアップグレード」](#)

XCPに関する問題と回避方法

この章では、XCPに関する問題について記載します。[表 4](#)、[表 5](#)、[表 6](#)はご使用のXCP版数によって発生しうる問題を示しています。

XCP 1082で発生しうる問題

表 4 に、XCP 1082で発生しうる問題とこれらの問題に対する回避方法を示します。

表 4 XCP 1082 で発生しうる問題と回避方法

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-009	XSCFが動作中、プロセスダウン、watchdogタイムアウトまたはハングアップが発生し、XSCFがリセットする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、全ドメインを停止後、本体装置の電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待つてから電源を投入してください。
RTIF1-070528-002	XSCFが動作中、watchdogタイムアウトが発生し、XSCFがリセットする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、全ドメインを停止後、本体装置の電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待つてから電源を投入してください。
RTIF1-071102-002	snmpデーモンが終了する場合があります。	setsnmp enableコマンドを実行し、snmpデーモンを再起動してください。
RTIF1-080725-001	setsnmp adv3traphost を実行した場合、Trap ホストが動作していない、ユーザー名やパスワードの間違いなどの理由で、認証に失敗すると、以降の SNMP Trap が通知されません。	有効な回避方法はありません。 SNMP TRAP ホストが起動されていることを確認の上、正しいユーザー名で setsnmp(8) コマンドを再度実行してください。
RTIF1-080725-002	SNMPv3 トラップを設定している場合、XSCFで watchdog timeout が発生し XSCF がリセットされると、以降の SNMP Trap が通知されません。	XSCF をリセットしてください。
RTIF1-081006-005	XSCF Webのネットワーク設定では、setnetwork -rコマンドに相当する機能がサポートされていません。また、ホスト名やドメイン名にlocalhostやlocaldomainを指定すると"SessionID has expired"とエラーメッセージが出力されます。	XSCF シェルで setnetwork -r コマンドを実行してください。
RTIF1-081006-011	SNMP トラップホストの設定を変更しても、setsnmp disableと setsnmp enable を実行するまで反映されません。	SNMP の設定を変更した場合は、以下のコマンドを実行してください。 XSCF> setsnmp disable XSCF> setsnmp enable

表 4 XCP 1082 で発生しうる問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-081225-001	settimezone -c adddstコマンドで、タイムゾーンの略称とサマータイム名を8文字以上に設定すると、showlogsコマンド実行時にSegmentation faultが発生し、コマンドが異常終了します。	タイムゾーンの略称とサマータイム名は7文字以内で指定してください。
RTIF1-090108-002	二系統受電構成の場合、片方の電源系統で停電／復電が繰り返し発生すると、全ドメインの電源が強制的に切断されます。また、強制的に電源が切断されたあとの復電時に、PSU構成違反がエラーログに登録され、復電が開始されない場合があります。	電源ケーブルの抜き差しが必要です。
RTIF1-090108-003	XSCF Webで表示されるLast Updateの日時が更新されない場合があります。	ブラウザ画面を更新してください。
RTIF1-090122-001	PSUが復電する前に、"Power recovery" のメッセージが表示されます。	"Power recovery" のメッセージが表示されたあとに、ほかのPSUの電源を切断する場合は、60秒待ってください。
RTIF1-090427-001	XSCFとSolaris OSが通信を行うための装置内ネットワークインターフェース(ppp)が、正常な状態であるにもかかわらず、SNMP MIBで異常(ダウン)状態と通知されます。	有効な回避方法はありません。
RTIF1-090427-002	XSCFのリセット後に、LDAPサーバを使用したXSCFへのログインができなくなります。	有効な回避方法はありません。 この現象が発生した場合は、XSCFへ初期アカウントでログインしてから、以下のコマンドを実行し、証明書チェーンを再インポートしてください。 setldap -c <remote file>
RTIF1-090427-004	LDAPサーバの設定において、XSCF WebとXSCFシェルの設定可能文字数が一致していません。XSCF Webでは128文字までしか入力できません。	129文字以上を設定する場合はXSCFシェルを使用してください。
RTIF1-090427-005	setpasswordpolicy(8)コマンドで Different Charactersに "999999999"(10桁)を設定したあと、showpasswordpolicy(8)コマンドで表示すると"-1"になってしまいます。	有効な回避方法はありません。 XSCF Webを使用してください。
RTIF1-090430-001	XSCFで https の設定(自己認証局)後にWebサーバ証明書を作成しても、httpsが有効になりません。	自己認証局を設定する場合は、空白文字を指定しないでください。

表 4 XCP 1082 で発生しうる問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-090508-001	<p>10 Gigabit Ethernetカード(SE0X7HE1F)が搭載されたドメインで、OpenBoot PROM環境変数 <code>diag-switch?</code> を <code>true</code> に設定していると、コンソールに以下のワーニングメッセージが出力されるとともに、エラーログに "Msg: Device error (FCode informed error)" が記録されます。</p> <pre>WARNING: /pci@7,700000: FCODE map-in doesn't match decoded register type;</pre> <p>また、<code>showstatus(8)</code> コマンドを実行すると、該当するカードが搭載されたFRUに対して "Degraded" と表示される場合があります。</p>	<p>これらすべての出力は無視しても差し支えありません。</p> <p>これらの出力を回避する場合は、<code>ok</code> プロンプトで以下のコマンドを実行し、OpenBoot PROM 環境変数 <code>diag-switch?</code> を <code>false</code> に設定してください。</p> <pre>setenv diag-switch? false</pre>

XCP 1082で解決された問題

表 5 に、XCP 1082で解決された問題を示します。

表 5 XCP 1082 で解決された問題

ID	説明	回避方法
RTIF1-070824-001	ドメインの電源連動機能のリモート電源制御モードを有効にしている場合、XSCFユニット交換後、RCIによる電源連動が作動しなくなります。	XSCFユニット交換後、RCIを再構築し、リモート電源制御モードを設定してください。
RTIF1-080725-004	XSCF シェルでサマータイムを設定すると、XSCF Web の Logs メニューで表示される時刻が、正しく表示されません。	有効な回避方法はありません。 XSCF シェルの <code>showlogs(8)</code> コマンドを使用してください。
RTIF1-081006-002	<code>setemailreport(8)</code> コマンドで、SMTP アドレスに 255 文字以上指定するとエラーになります。	SMTP アドレスに 255 文字以上指定しないでください。
RTIF1-081006-006	XSCF Webでパニックログを表示すると、メッセージの先頭部分から表示されないことがあります。	表示内容が不足している場合は、XSCF シェルで <code>showlogs panic</code> コマンドを実行してください。
RTIF1-081016-001	UPS装置が停電を検知しても、SNMP Trap が通知されません。	有効な回避方法はありません。

表 5 XCP 1082 で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-081030-002	設定されているタイムゾーンの略称が、3 文字でない場合、XSCF Web の Error Log ページでエラーログが表示されません。 また、XSCF Web の Panic Log および IPL Message Log ページのテーブル上部にあるログ採取時刻が "---" と表示されます。	XSCFシェルでshowlogs(8)コマンドを使用してください。
RTIF1-081104-001	PCIスロットの異常が検出された場合、監視メッセージログが登録されない場合があります。	有効な回避方法はありません。 PCIスロットの故障情報は、showlogs error コマンドまたはfmdumpコマンドで確認してください。
RTIF1-090115-001	settelnet -c disableコマンドを実行すると、ただちにTelnetサービスは停止します。ただし、rebootxscf(8)コマンドでXSCFをリセットしないと、次回Telnetサービスを再開する際に、失敗する場合があります。	Telnetサービスを停止した後は、rebootxscf(8)コマンドを実行して、XSCFをリセットしてください。
RTIF1-090220-001	複数の本体装置とI/O装置がRCIで接続されたシステムの場合、1台の本体装置の電源を投入しても、I/O装置の電源が投入されないことがあります。	すべての本体装置の電源を投入してください。
RTIF1-090220-002	XSCFユニットを交換すると、RCIの電源連動設定がデフォルト値にもどってしまいます。	電源連動設定をデフォルト値以外に設定している場合は、XSCFユニットを交換したあとに、setpwrmode(1M)コマンドを使用して電源連動設定を再度行ってください。

XCP 1082以前で解決された問題

表 6 に、XCP 1082以前で解決された問題を示します。

表 6 XCP 1082 以前で解決された問題

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-004	XCPファームウェアをアップグレードする場合は、ドメインの電源が切れている必要があります。	flashupdate(8) コマンドを実行する前に、ドメインの電源を切ってください。
RTIF1-070418-005	ブート中のSCFにログインすると、XSCF>プロンプトの代わりにbash\$プロンプトを取得し、ほとんどの操作を実行できなくなることがあります。	bash\$プロンプトをログアウトし、XSCFがブートを完了するまで待ってください。

表 6 XCP 1082 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-010	<code>showdomainstatus -a</code> コマンドではドメインステータスがPowered Offと表示されますが、 <code>showboards -a</code> コマンドではドメインがテスト中と表示されます。	<code>showboards</code> コマンドを使用して、ドメイン電源のステータスを確認してください。 <code>showdomainstatus</code> コマンドでは、正しいステータスを表示するのに、より時間がかかります。
RTIF1-070418-011	コンフィギュレーションデータをアップデートするコマンドに、実行に比較的長い時間を要するものがあります。	<code>set*</code> コマンドをキャンセルしないでください。これらのコマンドはハングしたように見えますが、最終的には約30秒以内に完了します。
RTIF1-070418-012	<code>fault (memory.block.ue)</code> が周期的に見つかり、報告されます。	あるDIMMの中に <code>uncorrectable error</code> が存在しており、このDIMMは交換されるべきです。
RTIF1-070418-020	XSCF Web を使用してファームウェアイメージをインポートするときにイメージが破損した (たとえばインポート中にブラウザウィンドウが閉じられた) 場合、後に <code>flashupdate</code> コマンドで内部エラーが報告されることがあります。CR ID6537996 も同様です。	コマンド <code>getflashimage -d</code> を使用し、破損したイメージを削除します。必要に応じて、XSCFユニットをリセットしてから、再度 <code>flashupdate</code> コマンドを使用して内部エラーをクリアします。
RTIF1-070418-021	<code>moveboard(8)</code> コマンドを使用してCODボードを移動しようとする時、失敗することがあります。	<code>moveboard(8)</code> コマンドの代わりに、 <code>deleteboard(8)</code> コマンドと <code>addboard(8)</code> コマンドを使用して下さい。
RTIF1-070418-022	XSCFファームウェアが自身をモニターし、何らかの異常を検出すると、強制的にリポートします。	XSCFユニットのリポートを完了させてください。およそ5分以内に通常動作に戻ります。
RTIF1-070418-023	<code>rebootxscf(8)</code> を使用すると、 <code>process down error</code> になることがあり、これはMSG ID SCF-8005-NEのFMA eventの可能性がります。	このイベントは、無視してください。
RTIF1-070418-025	<code>showaudit all</code> コマンドが、データベースのクリア後、 <code>policy section</code> に <code>defaults</code> の長いリストを表示します。	以下の設定で、データベースをアップデートしてください。 <code>setaudit -a opl=enable</code> <code>setaudit -a opl=default</code>
RTIF1-070528-001	Solarisの <code>/etc/ttydefs</code> ファイルを編集して、コンソールフロー制御を無効にした場合、中継サーバを経由の <code>telnet</code> ではコンソールフロー制御を無効にすることができません。	有効な回避方法はありません。
RTIF1-070802-001	<code>telnet</code> した時、 <code>login</code> または <code>password</code> プロンプトが表示されません。	<code>telnet</code> 接続を一度切断し、再度 <code>telnet</code> してください。

表 6 XCP 1082 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070823-001	XSCF Webを使用してsnapshot画面で、SSHを選択したとき、Host, Directory, ID, Passwordの入力可能文字数がXSCFシェルでの入力可能文字数と一致しません。	XSCF Webでの入力可能文字数を越えるような値を指定したい場合は、XSCFシェルを使用してください。
RTIF1-070823-002	XSCF WebでLogical Treeを表示したとき、ドメインの構成に依存して、同一ドメインが複数表示される場合があります。	Menuの項目からSystem Board Configurationを選択し、XSB Status (All)からドメイン構成を参照してください。または、showboards(8)コマンドを使用して、ドメイン構成を参照してください。
RTIF1-070823-003	XSCF WebでLogical Treeを表示したとき、ドメインに割り当てられているCPUやメモリのハードウェア構成が、実際のドメイン構成と異って表示されます。	Menuの項目からDevice Statusを選択してドメインのハードウェア構成を参照してください。または、showdevices(8)コマンドを使用して、ドメインのハードウェア構成を参照してください。
RTIF1-070824-002	XSCF WebでDomain Mode Configurationを選択し、各設定を行ったとき、ポップアップ画面が表示されず、画面上に"Undefined"が表示される場合があります。	再度、Domain Mode Configurationを選択して設定を行ってください。または、一旦、XSCF Webを終了させてから、設定を行ってください。
RTIF1-070824-003	XSCF WebでFirmware Update画面からXCPのインポート中に、REFRESHボタンを実行した場合、"Uploading Now!"のポップアップが消失し、XCPのインポートが異常終了します。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070824-004	XSCF WebでDomain Status画面から、Domain Component Listに表示されているXSBを選択したとき、選択したXSBが未搭載またはUni-XSBの場合、ポップアップ画面に何の情報も表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070824-005	XSCF WebでMonitor Message FrameのRefresh Interval値を変更したとき、"Confirmation Domain mode" の不当なポップアップが表示される場合があります。	ポップアップ画面を無視して画面を閉じてください。
RTIF1-070824-006	タブブラウザで同一ホストに対し、異なるユーザー権限のユーザーアカウントで複数ログインすると、最後にログインしたユーザーアカウントのユーザー権限が、ログイン済のページにも適用されてしまいます。	タブブラウザを使用する場合、同一ホストに対して複数ログインしないでください。
RTIF1-070824-007	XSCF Webで設定を変更する場合、確認ダイアログでキャンセルを選択したり、強制クローズすると、元の設定ページが使用できない状態になる場合があります。	Menuの項目から元の設定ページを再選択してください。

表 6 XCP 1082 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070824-008	Domain Configuration画面で未定義のDomain IDを選択するとConfiguration policy情報が前に表示した内容のままとなっています。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070824-009	System Board Configuration画面でDetailを実行するとMBUのCPUMとメモリのすべてがPSB#0側に搭載されているように表示されま す。また、PSB#0の詳細表示において、メモリが22枚+2枚と表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070824-011	Firefox 2を使用し、Domain Configuration画面のConfiguration policy設定で稼働中のdomainを指定した場合、エラー表示ポップアップのBackボタンをクリックし、情報再表示のための問合せ画面でCancelボタンをクリックするとエラーメッセージ画面のままとなります。	Menuの項目からDomain Configurationページを再選択してください。
RTIF1-070904-002	Snapshot CLIが書き込み保護設定をしているUSBスティックに書き込みを試みると、I/Oエラーとなります。	書き込み保護されたUSBデバイスを使ってshapshot収集を試行しないでください。
RTIF1-070904-003	誤ったドメイン状態が報告されます。ドメインに対し、sendbreak(8)コマンドが発行された後、ドメインが実際には"ok"プロンプトになっても、showdomainstatus(8)コマンドは"Running"の状態を表示し続けます。	回避方法はありません。これは、sendbreak(8)の正しい動作です。
RTIF1-070904-005	NTPサーバと時刻同期ができません。	NTPサーバのstratum値を確認してください。XSCFのstratum値は"5"です。XSCFが参照するNTPサーバは、stratum値が5より小さいサーバである必要があります。参照するNTPサーバを変更した場合は、XSCFをリセットしてください。 stratum値が正しく設定されていても時刻同期できない場合は、showntp(8)コマンドにより、表示されるjitter値を確認してください。この値が大きい場合は、XSCFをリセットしてください。
RTIF1-070904-006	ドメイン電源投入、ドメインリセット、またはDRの実行中にXSCFがリブートした場合、一部、またはすべてのXSBで、ドメイン電源投入、ドメインリセット、またはDR処理が中断されてしまう場合があります。	再度、ドメインリセットを実行するか、一旦ドメイン電源切断した後で電源投入を実施してください。

表 6 XCP 1082 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070912-001	不正なSMTPサーバが設定されていると、その後(setemailreport のCLIを使用して)emailサービスを無効化しようとしても、最長30分間ブロックされることがあります。	CLIが完了するのを待ってください。この間、システムの残りの部分は正常に機能します。 <ul style="list-style-type: none"> • CLIは、^C で中断することもできます。^C が使用された場合でも、操作(emailreportの無効化)が完了することにご注意ください。 • showemailreportコマンドを使って、サービスが無効化されていることを確認することができます。
RTIF1-070914-001	flushupdate(8)コマンドまたはBUIによりファームウェアアップデート実行中に、getflushimage(8)コマンドまたはBUIによってXCPのimportを実行した場合、ファームウェアアップデートが異常終了します。	ファームウェアアップデート中に、getflushimage(8)コマンドまたはBUIによるXCPのimportを実行しないでください。
RTIF1-070914-002	XSCFの切替えがおこなわれた時、モニタメッセージにActiveになったXSCFUの番号が表示されません。	showhardconf(8)コマンドを実行し、XSCFUの状態を参照してください。
RTIF1-070914-003	XSCFの切替えがおこなわれた時、エラーログに"SCF: Board control error (DMA timeout)"が格納されている場合があります。	有効な回避方法はありませんが、このメッセージは無視しても差し支えありません。
RTIF1-070914-005	XSCF WebでInternet Explorer 7を使用する場合、User Accounts画面において、User Local Accountsに各ユーザーのStatusが表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070914-006	XSCFのユーザーアカウント名を最長の32文字に設定した場合、ログインはできますが、その後、XSCFシェルを実行またはXSCF Webを操作すると、"Permission denied"が発生します。ユーザーアカウント名が32文字の場合は、"Permission denied"が表示されます。	XSCFのユーザーアカウント名は31文字以下で設定してください。
RTIF1-070914-007	XSCF WebでInternet Explorerを使用し、Log Archivesを選択したとき、Status of Log Archiving画面にステータス情報が表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070914-008	XSCF WebでSMTP画面から、POPまたはSMTP-authを選択し、Passwordを入力する時、入力値が"*"で表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070914-009	XSCF WebでSMTP画面から、POPまたはSMTP-authを選択した時、入力値が空欄でも設定できてしまいます。 さらに、設定できたにもかかわらず、過去に設定した情報が表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。

表 6 XCP 1082 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070914-010	<p>XSCF WebでSNMPv3 Security Settings画面からSNMP User-Based Security Model(USM) の Add UserまたはCopy Userを選択した際、Create or Copy User画面がポップアップ表示されます。</p> <p>この画面のSNMP Userを16桁以上で設定した場合、正しく登録されますが、ウェブブラウザ画面では15桁までしか表示されません。</p>	<p>SNMP Userを16桁以上で設定している場合は、showsnpusm(8)コマンドを使用してください。</p>
RTIF1-070914-011	<p>XSCF WebでSNMPv3 Security Settings画面からSNMP User-Based Security Model(USM) の Change Passwordを選択したとき、Change Password画面がポップアップ表示されます。</p> <p>この画面においてConfirm Passwordが入力必須項目であるにもかかわらず、"*Indicates required field"が注記として表示されていません。</p>	<p>Confirm Passwordは入力必須項目であり、必ず設定してください。</p>
RTIF1-070914-012	<p>XSCF WebのSNMP-Properties画面で、Trap Hostを選択せずにRemoveボタンを実行したとき、"The trap host will be removed" の不当なメッセージがポップアップ表示されます。さらに、ポップアップ画面でそのままOKを選択した場合、"Remove trap host failed. setsnmp: invalid trap type" の不当なメッセージが表示されます。</p>	<p>現時点では、有効な回避方法はありません。</p>
RTIF1-070914-013	<p>XSCF WebのAudit-Properties画面で、Add Policyボタンを実行した際、ポップアップ表示されたSet User PolicyのUserにXSCFに登録されていないユーザー名を指定して入力エラーが発生した場合、その指定したユーザー名をクリアするためにResetボタンを実行しても、入力した値がクリアされません。</p>	<p>正しいユーザー名を再度設定するか、Cancelボタンでポップアップ画面を閉じてください。</p>
RTIF1-070914-014	<p>XSCF Webで権限のないユーザーアカウントでSnapshotを選択し、Start timeやEnd timeのパラメータを設定し、Downloadボタンを実行したとき、権限エラーとならず、パラメータエラーが表示されます。</p>	<p>現時点では、有効な回避方法はありません。</p>
RTIF1-070914-015	<p>XSCF WebでUser Managerを選択し、ユーザーアカウントを追加するとき、指定するユーザー名が20文字までしか設定できません。</p>	<p>20文字以上のユーザー名を指定する場合は、adduser(8)コマンドを使用してください。</p>

表 6 XCP 1082 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070914-016	XSCF WebでLDAPを選択し、LDAP設定を行う場合、LDAP Search Timeoutをデフォルト値"0"のままSaveを実行したとき、"LDAP Configuration Update Failed. Save LDAP Configuration Data failed"となり、設定が格納できません。	LDAP Search Timeoutは、"0"は無効な値であるため、必ず 0以外の値を設定してください。
RTIF1-070914-017	XSCF WebでLDAPを選択し、LDAP Search Timeoutに最大値の2147483647秒以上の値を入力した時、パラメータエラーとなりません。	現時点では、有効な回避方法はありません。LDAP Search Timeoutには、最大値の2147483647秒が設定されます。
RTIF1-070914-018	XSCF Webで権限のないユーザーアカウントでLDAPを選択し、Deleteボタンを実行した場合、権限エラーとなりますが、表示されていた設定情報がクリアされ、削除されたように見えます。	設定は削除されていません。設定情報を再度表示する場合は、Menuの項目からLDAPを選択してください。
RTIF1-070914-019	LDAP設定したときのユーザーアカウントと異なるユーザーアカウントで-cオプションを指定してshowldap(8)コマンドでLDAP設定を表示した場合、"Permission denied"が発生します。 また、XSCF WebでLDAP設定の表示した場合、ポップアップ画面に何の情報も表示されません。	LDAP設定を行ったときのユーザーアカウントを使用してください。XSCF CLIおよびWebで、LDAPの表示および設定操作は、同じユーザーアカウントを使用してください。
RTIF1-070914-020	User Manager画面のUser Account設定ページでパスワードの変更が"Change Password Error"になった時、REFRESHボタンをクリックすると、"No user. The request is aborted."のエラーメッセージが表示されます。	パスワードの変更を行う場合は、MenuのUser Managerを再度選択してしてください。
RTIF1-070914-021	Open BootPROM処理中にドメインの電源を切断すると、Domain hang-up detected (level3)のエラーログが登録される場合があります。	このエラーログは無視しても差し支えありません。
RTIF1-070914-023	Device Status画面でモデル毎のサポート外のドメインIDやXSBを指定するとパラメータエラーが表示されます。	モデル毎のサポート対象範囲のドメインID、XSB番号を指定してください。
RTIF1-070914-024	XSCF Webで物理ツリーを表示した時、PCIボックスのlinkカードにWarningが表示されず。	現時点ではありません。
RTIF1-070914-026	XSCFがすべてのドメインに対する信頼できるNTPソースとして、時刻同期できない場合がある。	時刻同期できない場合、すべてのドメインはXSCFではなく、外部のNTPサーバを使用してください。

表 6 XCP 1082 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070915-001	Domain Configuration画面でDomain Component Listを新規に定義する場合にパラメータエラーが表示されることがあります。	Domain Component Listを定義する場合はCLIを使用してください。
RTIF1-071102-001	XSCFファームウェアはXSCF自身を監視し、矛盾点を見つけた場合は、XSCFを強制的にリセットすることがあります。	有効な回避方法はありません。XSCFユニットがリセットするまでお待ちください。およそ5分で通常の動作に戻ります。
RTIF1-071116-001	CPU/メモリボードユニットの活性交換 (addfru(8)コマンドまたはreplacefru(8)コマンド)でシステムボードの診断テストを実行せずに交換を終了させた場合、続けてDR操作を行うと、ボードがDRで利用できないという間違ったメッセージでエラーになる場合があります。	addfru(8)またはreplacefru(8)コマンドの保守メニューにある診断テストを必ず実行してください。addfru(8)またはreplacefru(8)コマンドの保守メニューで診断テストを実行し忘れた場合には、testsb(8)コマンドにより診断テストを実行するか、deletefru(8)コマンドでCPU/メモリボードユニットとI/Oユニットをいったん削除してからaddfru(8)コマンドの保守メニューで診断テストを行ってください。
RTIF1-071116-003	COD画面においてcodusageの詳細表示が正しく表示されません。	XSCFコマンド showcodusage(8)を実行して表示してください。
RTIF1-071116-004	Internet Explorer 7 のブラウザを使用すると、ライセンスキーの削除ができない場合があります。 .	XSCFコマンド deletecodlicense(8) を実行してライセンスキーを削除してください。 または、以下のブラウザを使用してください。 <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 6.0 • Firefox 2.0 or later • Netscape Navigator 7.1 or later
RTIF1-071129-001	XSCFコンソールに以下のメッセージが出力され、XSCFが正常に起動できない場合があります。 dbs [xxx]: ERR: scdb_init_all(): xx, No space left on device さらに、以下のエラーログが登録されます。 XSCF process down detected	XSCFユニットを交換してください。
RTIF1-071129-002	リモート装置からSSHコマンドでXSCFシェルコマンドをリモート実行したとき、以下のメッセージが出力されます。 stty: standard input: Invalid argument	回避方法はありません。
RTIF1-071129-003	I/Oの異常により、Solaris OSメッセージに以下のメッセージが出力されたとき、XSCFにはエラーログが登録されません。 SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-4P, TYPE: Fault	有効な回避方法はありません。

表 6 XCP 1082 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-071129-004	<p>以下のメッセージが出力され、Solaris OSがBootできない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Abnormal OpenBoot environment variable Boot process failed • ERROR: Invalid token ' ' FATAL: NVRAM contents corrupt; Reinitializing NVRAM parameters. 	<p>設定されているOpenBoot PROM 環境変数の内容を確認してください。設定に異常がある場合は再度設定してください。</p>
RTIF1-071227-001	<p>XSCFで日付/時刻の書き込みが異常になる場合があります。ドメインの電源を投入したときに以下のメッセージが出力され、ドメインの電源が投入できない場合があります。</p> <p>Poweron canceled due to invalid system date and time.</p>	<p>rebootxscf(8) コマンドによりXSCF を再起動してください。</p>
RTIF1-071227-002	<p>PCIボックスが接続された環境で、showhardconf(8)コマンドを実行すると、showhardconf(8)コマンドがハングアップしたように見える場合があります。</p>	<p>Ctrl-Cによりshowhardconf(8)コマンドを終了させ、再度showhardconf(8)コマンドを実行してください。</p>
RTIF1-071227-003	<p>Bootデバイスパスに対して、存在しないデバイス名を指定したことでOS Boot異常が発生すると、I/Oユニットのステータスが“Degraded”になる場合があります。</p>	<p>Bootデバイスパスに正しいデバイス名を指定してください。</p> <p>I/Oユニットのステータスが“Degraded”になった場合は、I/Oユニットを交換してください。</p>

表 6 XCP 1082 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-080313-001	<p>XSCFをドメインのNTPサーバとする場合に、ドメインを起動すると以下のメッセージがドメインコンソールに出力され、時刻同期ができない場合があります。</p> <pre>ntpddate[xx]: no server suitable for synchronization</pre>	<p>ドメインのxntpdで設定されているモードによって、以下のどちらかを実行してください。</p> <p>注 - step モードの場合、時刻を補正することで時刻飛びが発生します。時刻飛びが発生すると、ドメインで稼働中のアプリケーションに影響がでる可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • stepモードの場合 <ul style="list-style-type: none"> -wオプションを指定してntpddate(1M)コマンドを実行してください。NTPサーバと同期できるまで、一定の間隔で、ntpddateコマンドがリトライされます。リトライ時には、NTPサーバと同期できなかったことを表すメッセージが出力されますが、無視しても問題ありません。同期が完了するとNTPサーバの時刻に補正されます。 • slewモードの場合 <ul style="list-style-type: none"> -wオプションを指定しないでntpddate(1M)コマンドを実行してください。slewモードでは、0.5ms/秒の間隔で、NTPサーバとの時刻差が補正されます。NTPサーバと同期できなかったことを表すメッセージが出力されますが、無視しても問題ありません。時刻が完全に補正されるまでは、NTPサーバとドメイン間で時刻差が生じています。
RTIF1-080325-001	<p>AC 電源を投入したり、rebootxscf(8) コマンドを実行したりした場合に、XSCF へログインできなくなり、オペレーターパネルの POWER スイッチを押しても電源が投入できないことがあります。</p>	<p>AC 電源を投入したり、rebootxscf(8) コマンドを実行したりする前に、XSCF LAN が正しく接続され、リンクアップされていることを確認してください。</p> <p>上記の現象が発生した場合は、全ドメインの電源を切断後、本体装置の電源を切断/投入してください。電源を再投入するときは、電源を切断したあと 30 秒以上待ってから投入してください。</p>
RTIF1-080404-001	<p>XSCFのdeleteboard(8)コマンドおよびmoveboard(8)コマンドを使用してDR操作を行うと、I/Oチャンネルの縮退が確認され、エラーメッセージおよび関連するereportが登録されることがあります。</p> <p>この問題が発生した場合は、fmdump(8)コマンドによって、以下のエラーが間違って出力されます。</p> <pre>ereport.chassis.SPARCEnterprise.asic.ioc.ch.leaf.fe</pre>	<p>表示されたエラーに対するMSG-IDと実際の動作が一致せず、リセットや縮退が発生しない場合があります。showlogs errorコマンドで表示されるエラーコードを当社技術員までご連絡ください。</p>

表 6 XCP 1082 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-080404-002	setsnmpusm passwd コマンドでパスワードを設定する場合に、8文字未満でパスワードを設定すると、segmentation fault が発生します。	パスワードは常に8文字以上で設定してください。
RTIF1-080512-001	sethostname(8) コマンドのhostname に "localhost" を指定してから、applynetwork(8) と rebootxscf(8) コマンドで XSCF をリセットすると、XSCF がプロセスダウンします。	sethostname(8) コマンドのhostname に "localhost" を指定しないでください。
RTIF1-080512-003	Quad-XSB で構成されたドメインに対して、PCI カードの活性増設を行ったあとドメインを再起動すると、それ以降、PCI カードの活性増設ができない場合があります。	PCI カードの活性増設をしないでください。PCI カードの活性増設に失敗した場合は、ドメインを停止して PCI カードを増設してください。
RTIF1-080526-001	システムが多くの故障で圧迫されているときに XSCF の fmd プロセスがハングすることがあります。いちど発生すると、XSCF の fma に関するコマンドが失敗したり、ハングしたりします。	rebootxscf(8) コマンドで XSCF をリセットしてください。
RTIF1-080620-001	本体装置の電源ケーブルが抜けてしまった場合に、SNMP Trap が通知されません。	有効な回避方法はありません。
RTIF1-080725-003	setdomparam set-defaults オプションで設定される初期値が、OpenBoot PROM の初期値と異なります。 項目 現在の値 期待値 diag-level none(0x00) min(0x20) auto-boot? false(0x00) true(0xff)	OpenBoot PROM プロンプト (ok>) で set-defaults コマンドを実行し、OpenBoot PROM 環境変数を初期値に戻してください。
RTIF1-080808-001	PRIMECLUSTER ソフトウェアを使用したクラスタシステムにおいて、RCI 装置が 10 台以上で構成されている場合、RCI のビジュー状態が一時的に解除されず、以下の syslog メッセージが出力される場合があります。 「SA_pprcir.so to test host host_name failed」	PRIMECLUSTER ソフトウェアのマニュアルを参照し、クラスタの状態を確認します。状態に問題がない場合、メッセージは無視しても差し支えありません。状態に問題がある場合、マニュアルに従って問題を解決してください。
RTIF1-081006-001	"XSCF FMEM write error" のエラーログが記録され、ファームウェアアップデートが失敗する場合があります。	システムの電源をいったん切断 (AC OFF) してから、再投入 (AC ON) してください。その後、再度ファームウェアアップデートを実行してください。

表 6 XCP 1082 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-081006-004	<p>ファームウェアアップデート中に以下のメッセージが出力され、XSCF がパニックすることがあります。</p> <pre>kernel BUG in jffs2_do_read_inode at fs/jffs2/readinode.c:XXX!</pre>	<p>XSCF をリセットしたあと <code>flashupdate(8)</code> コマンドを使用して、再度、ファームウェアアップデートを行ってください。</p>
RTIF1-081006-007	<p><code>password(8)</code> コマンドの <code>[user]</code> オペランドは、ドキュメントでは省略可となっているにもかかわらず、オプション設定時に指定しない場合はエラーとなります。</p>	<p>有効な回避方法はありません。 オプションを設定した場合は、<code>user</code> オペランドを指定して <code>password(8)</code> コマンドを実行してください。</p>
RTIF1-081016-003	<p>Internet Explorer 6 または 7 で、XSCF Web の <code>[Setting]-[Audit]</code> メニューから <code>[Add Policy]</code> を選択したときに表示されるポップアップ画面上で、<code>[Reset]</code> ボタンをクリックしたあと <code>[OK]</code> ボタンをクリックすると、以下のメッセージが出力され、ログアウトされる場合があります。</p> <pre>Error Session Error Session ID has been expired</pre>	<p>XSCF Web に再ログインしてください。ポップアップ画面の <code>[User]</code> テキストボックス内のテキストを消去する場合は、<code>[Reset]</code> ボタンを使用せずに、<code>BackSpace</code> キーを使用してください。</p>

Solaris OSに関する問題と回避方法

この章では、Solaris OSに関する情報について記載します。表 7、表 8、表 9、表 10 および表 11はご使用のSolaris OSによって発生しうる問題を示しています。

すべてのバージョンのSolaris OSに関連する問題

リリースされているすべてのバージョンのSolaris OSで発生しうる問題を、表 7に示します。

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6440061	ドメインのコンソールに、 ipsec_check_inbound_policy: Policy Failure for the incoming packet (not secure)というメッセージが表示される ことがあります。	このメッセージは無視しても差し支えありません。
6459540	SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの内 蔵テープドライブユニットがテープの処理中に タイムアウトすることがあります。	以下の定義を、/kernel/drv/st.conf に追 加してください。 tape-config-list = "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE_DAT DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3; "SEAGATE_DAT"と"DAT72-000"の間には、4つ の半角スペースがあります。
6466617	PCI-Express スロットのHot Plug操作が速すぎ ると、PCI リーフのリセットが中断されて、以 下のエラーが発生します。 cfgadm: Component system is busy	cfgadm -c コマンドを続けて発行するとき は、数秒の間隔をおいて発行してください。

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関する問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6481002	PCI-Expressカードを使用してネットワークからSolarisをインストールすると、パニックが発生することがあります。	Sun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter MMFカードまたはSun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter UTPカードを使用している場合は、これらのカードを使用してSolarisをインストールしないでください。代わりに、オンボードのGigabit Ethernetなど、他のネットワークデバイスを使用してください。
6515648	dr@0:SB1::memoryの失敗時、「Replumb Failed」の問題が発生します。	DR操作が完了したら、手動で設定できます。インターフェースを手動で再設定する手順の例は、次のとおりです。 <pre># ifconfig interface plumb xxx.xxx.xxx.xxx netmask + broadcast + up # ifconfig interface group group-name # ifconfig interface addif xxx.xxx.xxx.xxx -failover deprecated up</pre> <p>この回避方法は、<code>/etc/hostname.<interface></code> ファイルがIPMPグループに対して正しく設定されており、修正の必要がないことを前提としています。上述の例で使用しているIPアドレスは、以前使用していたIPアドレスおよび <code>/etc/hostname.<interface></code> ファイルと一致していなければなりません。</p>
6516135	cfgadm(1M) によりデバイスや Ap_Id が正しく表示されないことがあります。	以下の操作を使用して、すべてのPCIスロットを表示してください。 1) devfsadm (at Solaris prompt) 2) cfgadm
6519290	/tmp (tmpfs) に巨大なファイルや大量のファイルを作成した場合、または、復旧可能な軽度のメモリ不足が発生した場合、スワップデバイスへのI/Oが大量に発行され、システムがスロウダウンすることがあります。	以下を <code>/etc/system</code> のファイルに追加してから、ドメインを再起動してください。 <pre>set maxfastscan=0x2000</pre>
6522017	ZFSファイルシステムを使用しているドメインでは、DRが失敗することがあります。	<code>/etc/system</code> に <code>zfs_arc_max</code> パラメータを設定し、ZFSが割り当てられるカーネルメモリ量を減らしてください。以下の例は、512Mバイトに設定しています。 <pre>set zfs_arc_max = 0x20000000</pre>
6529714	1台のI/Oポートに4枚を超えるX4447A-ZカードまたはX1027A-Z1カードを組み込もうとすると、警告メッセージが表示されます。	有効な回避方法はありません。

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関する問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6530753	PCIボックスのPCIスロットの一部が、通常のブート動作中に表示されません	以下の操作のいずれかを使用して、すべてのPCIスロットを表示してください。 <ul style="list-style-type: none"> • <code>boot -r</code> (at OpenBoot PROM prompt) • <code>devfsadm -C</code> (at Solaris prompt) • <code>cfgadm</code> (twice at Solaris prompt)
6531036	ネットワークインストール後、 <code>network initialization failed</code> のエラーメッセージが繰り返し表示されることがあります。	有効な回避方法はありません。このメッセージは無視しても差し支えありません。
6531668	DR中にHot Plug処理を多重で実行すると、システムがハングします。	有効な回避方法はありません。
6532215	ドメインのブート時に <code>volfs</code> や <code>dscp</code> サービスの起動が失敗することがあります。 <pre>svc:/platform/sun4u/dscp:default: Method "/lib/svc/method/svc-dscp start" failed with exit status 95.</pre> <pre>svc:/system/filesystem/volfs:default: Method or service exit timed out. Killing contract 59.</pre>	ドメイン起動後にサービスを再起動してください。 本問題を事前に回避する場合は以下を設定してください。 <pre># svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs</pre>
6537511	セキュリティテスト実行中にBluetoothパートナーがハングします。	アプリケーションサーバを再起動してください。
6565553 6674266	DRの <code>deleteboard(8)</code> または <code>moveboard(8)</code> コマンドによるシステムボードの削除が失敗することがあります。 ドメイン側のメッセージ: <pre>drmach: WARNING: Device driver failure: /pci dcs: <xxxx> config_change_state: Hardware specific failure: unconfigure SB1: Device driver failure: /pci</pre>	有効な回避方法はありません。 この現象が発生した場合は、DR操作を再度実行してください。
6572827	<code>prtdiag -v</code> コマンドでPCIバスのタイプが間違っていて出力されます。PCI-Xリーフデバイスには「PCI」、古いPCIデバイスには「UNKN」と表示されます。	有効な回避方法はありません。
6592302	DR操作が正常に終了しなかった場合は、一部のメモリが組み込まれたままになることがあります。	再度 <code>deleteboard(8)</code> コマンドを実行してください。

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関する問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6619344	<p>以下のカードをスロット 1 に搭載した場合、ホットプラグ操作が行えないことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 	<p>この問題を回避するために、このカードをスロット 1 に搭載しないでください。</p>
6625734	<p>シングルドメイン環境下で、大量のプロセッサが搭載されているシステムでは、一定の作業負荷がかかるとパフォーマンスが低下することがあります。</p>	<p>アプリケーションプロセッサをバインドする場合はプロセッサセットを使用するか、プロセッサをグループ化させるためにLWPを使用してください。詳細は、Solarisのpsrset(1M)コマンドのマニュアルページを参照してください。</p>
6660168	<p>ドメイン上で<code>ubc.piowbeue-cpu error</code>が発生するとSolaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code>が失敗し、FMAサービスが停止することがあります。これが発生すると、コンソールログに以下のように出力されます。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: <hostname> SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1- cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled. Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use fmdump -v -u <EVENT-ID> to locate the module. Use fmadm reset <module> to reset the module.</pre>	<pre># svcadm clear fmd</pre> <p>その後、<code>cpumem-diagnosis</code>を再起動します。</p> <pre># fmadm restart cpumem-diagnosis</pre>

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関する問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6668237	DIMM を交換しても、該当した DIMM の故障がドメインから消去されません。	以下のコマンドを実行してください。 # <code>fmadm repair fnri uuid</code> # <code>fmadm rotate</code>
6745410	システムを boot しないような <code>kadb</code> のオプションは、ブートプログラムで無視されてしまいます。	<code>kadb</code> を使用しないで、 <code>kmdb</code> を使用してください。

Solaris 10 5/09で解決された問題

Solaris 10 5/09で解決された問題を表 8に示します。Solaris 10 5/09より以前の製品では発生することがあります。

表 8 Solaris 10 5/09 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6588555	カーネルメモリに対してDR操作を行っているときにXSCFをリセットすると、ドメインがパニックする場合があります。	これは、パッチ139555-08で修正されました。 [回避方法] DR操作中にXSCFをリセットしないでください。DR操作が終了してからリセットを開始してください。
6623226	Solarisの <code>lockstat(1M)</code> コマンドや <code>dtrace lockstat provider</code> で、システムパニックが発生することがあります。	これは、パッチ140336-01で修正されました。 [回避方法] <code>lockstat(1M)</code> コマンドおよび <code>dtrace lockstat provider</code> を使用しないでください。
6680733	Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC)および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF)に高負荷がかかっていると、パニックを起こす場合があります。	これは、パッチ139570-01で修正されました。

表 8 Solaris 10 5/09 で解決された問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6689757	<p>Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF)に対して、XFP光トランシーバーをひとつだけ、または誤った方法でインストールしている場合には、コンソールに、以下のメッセージが出力されることがあります。</p> <pre>The XFP optical transceiver is broken or missing.</pre>	<p>これは、パッチ139570-01で修正されました。</p> <p>[回避方法] 両方のXFP光トランシーバーがしっかりハウジング内に収まっていることを確認してください。</p> <p>インテル社製XFP光トランシーバーとSun社製のXFP光トランシーバーを同じアダプタ内に混在させないでください。</p> <p>ポートがXFP光トランシーバーを含まない場合、あるいは使用されていないトランシーバーを含む場合は、そのポートに対してifconfig plumbを実行しないでください。</p>

Solaris 10 10/08で解決された問題

表 9 にSolaris 10 10/08で解決した問題を示します。Solaris 10 10/08より以前の製品では発生することがあります。

表 9 Solaris 10 10/08 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6511374	<p>システム構成変更後、予期しないエラーメッセージがコンソール上に表示されることがあります。</p> <p>例:</p> <pre>WARNING: Translation error source /LSB0/B0/0, PA 3c0000000000, target /LSB0/B0/20000000</pre>	<p>これは、パッチ137137-09で修正されました。</p> <p>このメッセージは無視しても差し支えありません。</p>
6533686	<p>システムリソースが少ない場合、カーネルメモリを再配置するdeleteboard(8)またはmoveboard(8)コマンドのDR操作が、以下のメッセージが繰り返されエラーとなることがあります。</p> <pre>SCF busy DR parallel copy timeout</pre> <p>これは、複数ドメインのホストで、Quad-XSBで構成されたシステムボードだけが該当します。</p>	<p>これは、パッチ138397-01で修正されました。</p> <p>[回避方法] しばらくしてから、DR 操作を再度実行してください。</p>

表 9 Solaris 10 10/08 で解決された問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6608404	以下のカードをスロット1に搭載した場合にホットプラグ操作を行うと、他のネットワークデバイスがフェイルすることがあります。 X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP	この問題を回避するために、このカードをスロット1に搭載しないでください。
6614737	以下の条件下において、DRのdeleteboard(8)またはmoveboard(8)コマンドがハングアップすることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • DIMMが縮退している場合 • 搭載メモリサイズが異なるシステムボードが存在する場合 	これは、パッチ137111-01で修正されました。 [回避方法] 上記に該当する場合は、DR操作をしないでください。 DIMMが縮退しているかどうかについては、XSCFのshowstatus(8)コマンドで確認できません。詳細は、59ページの「システム内の縮退メモリの識別」を参照してください。 各システムボードの搭載メモリサイズは、XSCFのshowdevices(8)コマンド、またはドメインのprtdiag(1M)コマンドで確認できません。詳細は、59ページの「システムボード上の異なるメモリサイズの識別」を参照してください。 DR操作がハングアップした場合は、ドメインを再起動してください。
6632549	DR によるシステムボードの追加および削除時に、ドメインの fmd サービスが maintenance モードになることがあります。	これは、パッチ138050-01で修正されました。 [回避方法] 問題が発生したときは、ドメインの fmd サービスを再起動してください。 # svcadm clear fmd
6660197	ドメインが以下のどちらかの状態の場合は、DR操作がハングする場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 1つのドメインが256以上のCPUを含む場合 • メモリエラーが発生し、メモリが縮退している場合 	これは、パッチ138397-01で修正されました。 [回避方法] 以下の手順を実行してください。 1. /etc/systemに以下の記述を追加する set drmach:drmach_disable_mcopy = 1 2. ドメインを再起動する

表 9 Solaris 10 10/08 で解決された問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6679370	<p>OS 起動中、または Hotplug 機能による PCI ボックスの追加中、または DR 機能による FMEMA 処理中において、コンソールに以下のメッセージが出力される場合があります。</p> <p>SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical</p> <p>...</p> <p>DESC:</p> <p>A problem was detected in the PCI-Express subsystem.</p> <p>Refer to http://sun.com/msg/SUN4-8000-75 for more information.</p> <p>...</p>	<p>これは、パッチ 137137-09 で修正されました。</p> <p>注 - 137137-09 以降を適用する前に、<code>/etc/system</code> から以下の設定を削除してください。</p> <pre>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</pre> <p>[回避方法]</p> <p><code>/etc/system</code> に以下の設定を追加し、ドメインを再起動してください。</p> <pre>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</pre>
6720261	<p>ドメインで以下のどちらかのバージョンの Solaris OS が稼働している場合、システムがパニックまたはトラップを起こすことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solaris 10 5/08 • パッチ 127127-11 が適用された、上記より古いバージョンの Solaris OS 	<p>これは、パッチ 137137-09 で修正されました。</p> <p>[回避方法]</p> <p>システム設定ファイルである <code>/etc/system</code> に、以下の変数を必ず設定してください。</p> <pre>set heaplp_use_stlb=0</pre> <p>そのあと、ドメインを再起動してください。</p>

Solaris 10 5/08で解決された問題

表 10 にSolaris 10 5/08で解決した問題を示します。Solaris 10 5/08より以前の製品では発生することがあります。

表 10 Solaris OS 10 5/08 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6472153	SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ以外のサーバ上にSolarisフラッシュアーカイブを作成し、それをSPARC Enterprise M4000/M5000サーバにインストールすると、コンソールのTTYフラグが正しく設定されません。その結果、コンソールのハングを引き起こすことがあります。	<p>Solaris 10 8/07以前をご使用の場合は、パッチ 137046-01で修正されました。</p> <p>[回避方法]</p> <p>インストールした直後にSPARC Enterprise M4000/M5000 サーバにtelnetで入り、コンソールのTTYフラグを以下のようにリセットします。</p> <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre> <p>この作業は1回だけ実行してください。</p>
6522433	CPU ハードエラーが発生した後、ドメイン上の <code>fmdump(1M)</code> コマンドで表示される故障コンポーネントが誤って表示されることがあります。	<p>Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ 127127-11 で修正されました。</p> <p>[回避方法]</p> <p>XSCF でシステムステータスを確認してください。</p>
6527811	PCI カードを搭載したPCI ボックスを PCI hotplug で追加した場合、PCI ボックス内の PCI カードの情報が XSCF の <code>showhardconf(8)</code> で表示されません。	<p>Solaris 10 8/07以前をご使用の場合は、パッチ 128346-01で修正されました。</p>

表 10 Solaris OS 10 5/08 で解決された問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6536564	I/Oデバイスでハードエラーが発生した場合、Solaris Fault Management Architecture が正しい診断をしないため、XSCF 上の showlogs(8) や showstatus(8) コマンドが誤った故障箇所を表示することがあります。	<p>Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合、これはパッチ125369-05で修正されました。</p> <p>[回避方法] この問題を回避するために、以下をドメインで実行してください。</p> <pre># cd /usr/platform/SUNW,SPARC-Enterprise/lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd</pre> <p>上記を設定後、以下のメッセージが表示された場合は、当社技術員にご連絡ください。</p> <p>例：</p> <pre>SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc</pre>
6545143	TLBのトラッププロセスがユーザースタックアドレスを見失っている間、システムパニックが発生する可能性があります。問題は、フラッシュウィンドウトラップ(ta 3)を実行しているユーザープロセスと同時に、ユーザースタックがマッピングされない場合に発生します。パニックメッセージは、以下の文字列を含んでいません。 bad kernel MMU trap at TL 2	<p>Solaris 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ127111-08で修正されました。</p> <p>有効な回避方法はありません。</p>
6545685	OSコンソールに以下のメッセージが表示された場合、以降の再起動において、メモリ縮退もしくはXSB縮退が発生することがあります。 例： mc-opl: WARNING: mc-opl rewrite timeout on /LSB0/B0	<p>Solaris 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ127111-08で修正されました。</p> <p>[回避方法] /etc/systemに以下の設定を行い、ドメインを再起動してください。 set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000</p>

表 10 Solaris OS 10 5/08 で解決された問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6546188	以下のカード上でホットプラグ(cfgadm (1M)) およびDR操作(addboard (8) および deleteboard (8))を実行中、システムがパニックします。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6551356	これまで未設定だったカードを設定するために hotplug (cfgadm(1M)) を実行中、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、"WARNING: PCI Expansion ROM is not accessible" というメッセージがコンソール上に表示されます。この不具合によって、以下のカードが影響を受けます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。 [回避方法] cfgadm -c disconnect を実行し、カードを完全に削除してください。最低10秒間待ってから、cfgadm -c configure コマンドを使用して、カードを元のドメインに設定することができます。
6559504	以下のカードを使用すると、コンソール上に、"nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn" という形式のメッセージが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。 [回避方法] このメッセージは無視しても差し支えありません。
6564934	以下のネットワークカードを使用している場合、カーネルメモリを含むボードに対してDRのdeleteboard(8)コマンドを実行すると、接続が壊れてしまいます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。 [回避方法] DR操作が完了したら、影響するネットワークインターフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順については、ipconfigのマニュアルページを参照してください。
6568417	CPU DR deleteboard(8) 操作が正常終了後、以下のネットワークインターフェースを使用中に、システムがパニックします。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ 127111-02 で修正されました。 [回避方法] /etc/system に以下を追加し、システムを再起動してください。 set ip:ip_soft_rings_cnt=0

表 10 Solaris OS 10 5/08 で解決された問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6571370	<p>以下のカードを使用すると、ストレステストでデータ破壊が起こる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>Solaris 10 8/07 をご使用の場合は、パッチ 127741-01 で修正されました。</p> <p>[回避方法] /etc/systemに以下の1行を追加して、システムを再起動してください。 set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</p>
6589546	<p>prtdiag(8)コマンドは、以下のカードに対して、すべてのI/Oデバイスを表示しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • XSEFC402AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA • XSEFC401AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA 	<p>Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合は、パッチ 127127-11 で修正されました。</p> <p>[回避方法] すべてを出力する場合は、prtdiag -vコマンドを使用してください。</p>

Solaris 10 8/07で解決された問題

Solaris OS 10 8/07で解決された問題を表 11に示します。Solaris 10 8/07より以前の製品では発生することがあります。



注意 – CR ID #6534471 : カーネルメモリ内ラージ・ページの扱いが不適切なため、予期せぬパニックが発生することがあります。本プロダクトノートに記載されているCR ID #6534471 の回避方法を実施するか、もしくはパッチが入手可能かどうか確認し、ただちにインストールしてください。これは、125100-06 および Solaris 10 8/07 で修正されました。

表 11 Solaris OS 10 8/07 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6416224	<p>単一のNICカードの接続数が5,000を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。</p> <p>[回避方法] 複数のNICカードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。</p>

表 11 Solaris OS 10 8/07 で解決された問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6441349	システム内でI/Oエラーが発生したときに、システムがハングすることがあります。	Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-07で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6485555	レースコンディションにより、オンボードの Gigabit Ethernet NVRAMに故障が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。	Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6496337	uncorrectable error (UE) パニック後、 "cpumem-diagnosis" モジュールのロードに失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、通常このモジュールを使用しFMAによって自動的に診断されているイベントは、手動での診断が必要になります。 例： SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007 PLATFORM: SUNW, SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ff-em7-d0	Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 125369-05で修正されました。 [回避方法] 問題が発生した場合、以下を実施してください。 1. 以下のファイルを削除してください。 # rm /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis 2. fmdサービスをリスタートしてください。 # svcadm restart fmd 問題を事前に回避する場合、 /lib/svc/method/svc-dumpadm の以下の場所に "rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis" を追加してください。 # # We haven't run savecore on a dump device yet # savedev=none rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis #

表 11 Solaris OS 10 8/07 で解決された問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6499304	<p>Correctable Error (CE) が多数発生すると、CPUがオフラインにならず、予期しないメッセージがコンソール上に表示されます。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007 PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0</p>	<p>Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 125369-05で修正されました。</p> <p>[回避方法] XSCFでCPUステータスを確認してください。</p>
6502204	<p>CPU UEパニック後、ブート中に、予期しないエラーメッセージがコンソール上に表示されることがあります。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007 PLATFORM: SUNW, SPARC-Enterprise, CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1-16-d0</p>	<p>Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 125369-05で修正されました。</p> <p>回避方法] 予期しないメッセージが表示されたら、XSCFのshowdomainstatus(8)コマンドでドメインステータスを確認してください。</p>
6502750	<p>PCI Hot Plugによるカードの挿入または取り外しに対する通知メッセージが出力されないことがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。</p> <p>有効な回避方法はありません</p>
6508432	<p>I/Oスロット1またはPCIボックスにおいて、Correctable エラー (CE) が大量に発生した場合、修正可能なエラーであるにも関わらず、ドメインがパニックすることがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。</p> <p>[回避方法] /etc/system に以下の設定を行い、ドメインを再起動してください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</p>
6508434	<p>PCI Hot Plugにより、PCI-Xカードの増設およびPCI-Xの交換を行うとドメインがパニックする場合があります。</p>	<p>Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。</p> <p>[回避方法] PCI Hot Plug 機能により、同一スロット上のPCI-Xカードの種類を変更しないでください。</p>
6509337	<p>s10s_u3WANブートに失敗し、サーバが「416: Requested Range Not Satisfiable」を返しました。</p>	

表 11 Solaris OS 10 8/07 で解決された問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6510861	Dual-Channel Ultra320 SCSI Card (SE0X7SC2F, SE0X7SC2X)を搭載している場合、correctable error (CE) が発生するとパニックします。	Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。 [回避方法] 以下を/etc/system のファイルに追加してから、ドメインを再起動してください： set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1
6520990	Dynamic Reconfiguration (DR) によるカーネルボードの deleteboard(8)コマンドを実施した場合、ドメインがパニックすることがあります。	Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-08で修正されました。 [回避方法] この問題を回避するために、以下を/etc/system のファイルに追加してから再起動してください。 set drmach:fmem_timeout = 30
6530178	DR のaddboard(8)コマンドがハングする場合があります。問題が検出されると、それ以上のDR操作はブロックされます。復旧にはドメインの再起動が必要です。	Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-07で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6530288	cfgadm(1M) コマンドで表示される Ap_Id が正しく表示されないことがあります。	Solaris 10 11/06をご使用の場合は、パッチ 120011-07で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6534471	通常の操作中に、システムがパニック/トラップすることがあります。	Solaris 10 11/06をご使用の場合、これはパッチ 125100-06で修正されました。 [回避方法] カーネルメモリ内ラージページの扱いを無効にしてください。/etc/system内で、変数 heaplp_use_stlbを0に変更してください。 set heaplp_use_stlb=0
6535564	DR で追加したシステムボード上の PCI スロット #0, #1 またはPCIボックスに対する PCI Hot Plug が失敗することがあります。	Solaris 10 11/06をご使用の場合、これはパッチ 120011-08で修正されました。 [回避方法] PCI Hot Plug の代わりに DR によりカードの追加・削除を実施してください。

表 11 Solaris OS 10 8/07 で解決された問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6536564	I/Oデバイスでハードエラーが発生した場合、Solaris Fault Management Architecture が正しい診断をしないため、XSCF 上の showlogs(8) や showstatus(8) コマンドが誤った故障箇所を表示することがあります。	<p>この問題を回避するために、以下をドメインで実行してください。</p> <pre># cd /usr/platform/SUNW,SPARC-Enterprise/lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd</pre> <p>上記を設定後、以下のメッセージが表示された場合は、当社技術員にご連絡ください。</p> <p>例：</p> <pre>SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc</pre> <p>これは、Solaris 10 5/08で修正されました。Solaris 10 8/07 以前をご使用の場合、これはパッチ125369-05で修正されました。</p>
6539084	Solaris 10 11/06 環境下で、Sun 製の PCIe Quad-port Gigabit Ethernet アダプター UTP カード (X4447A-Z) が再起動中に、ごくまれにパニックすることがあります。	有効な回避方法はありません。
6539909	Solaris 10 11/06環境下で、boot net installコマンドを使用してSolaris OSをインストールしているとき、ネットワークアクセスに以下のI/Oカードを使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP 	代替のネットワークカードまたはオンボードネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由でSolaris OS をインストールしてください。
6542632	driver attachが失敗すると、PCIeモジュールにメモリアリークが発生します。	<p>Solaris 11/06 をご使用の場合は、パッチ 120011-09 で修正されました。</p> <p>有効な回避方法はありません。</p>

ソフトウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのソフトウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のソフトウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

なお、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF リファレンスマニュアル』に関する変更内容は、特に断りのないかぎり、マニュアルページにも適用されます。また、マニュアルページの情報よりも優先されます。

表 12 に、マニュアルの変更予定を示します。

表 12 ソフトウェアマニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000サーバ アドミニストレーション ガイド		左記マニュアルにある用語「電源ボタン」は、他マニュアルに記載されている「POWERスイッチ」と同義です。
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド		
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000サーバ XSCF リファレンスマニ ュアル		
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド	2-26	「2.2.2」にある「ロックアウト時間に0分を指定してロックアウト機能を無効にする場合、任意のユーザーアカウントで最初のログインに成功すると、ロックアウト機能は無効になります。無効設定後、最初のログインに失敗すると、ロックアウト機能は無効になりません。」は、以下に読み替えてください。 「setloginlockoutコマンドで、-s 0を指定すると、ロックアウト機能を無効にできます。ロックアウト機能を無効に設定した場合、ユーザーは何回でもログインを試みることができるようになります。ロックアウト時間が経過する前にロックアウトされたユーザーアカウントにアクセスする必要がある場合は、システム管理者にロックアウト機能を無効してもらい、ログインが許可された後、ロックアウト時間を設定してロックアウト機能を再度有効にしてください。」

表 12 ソフトウェアマニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド	2-32	LDAPサーバは129 文字以上で指定できますが、表2.6には、誤って「最大128文字」と記載されていました。
	3-3	表 3.1にある「ドメインコンソールは強制ログアウトしません。」という文は以下に読み替えてください。 ドメインからログアウトしないで、ドメインコンソールからXSCF シェルコンソールに戻った場合は、自動的にドメインからログアウトされます。ドメインコンソールを放置した場合のセッションタイムアウト時間を設定する場合は、Solaris OSのマニュアルを参照してください。
	9-12	「表9.10 ネットワーク設定」のXSCFネットワーク設定の備考欄に、以下の内容が追加されます。 DSCPリンクアドレスは、XSCF Web 上では設定／表示できません。setdscp(8) およびshowdscp(8) コマンドを使用してアドレスを設定／表示してください。
	9-13	XSCF Webでは、129文字以上でLDAPサーバを指定することはできません。表9.13に注として追加されます。
	9-19	XSCF Webでは、コンソールログ、パニックログ、IPL メッセージログ、監視メッセージログ、および監査ログに対する、ログ検索はできません。表9.24のこれらのログには、誤って「ログ検索できます。」と記載されていました。
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000サーバ XSCF リファレンスマニュアル		setloginlockout(8)コマンドおよびshowloginlockout(8)コマンドが追加されます。 詳細については、setloginlockout(8)コマンドおよびshowloginlockout(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。
	adduser(8)コマンド	userオペランドにある「大文字、小文字は区別されます。」という記述は、「大文字は使用できません。」に変更されます。また、大文字を使用した例は削除されます。
	setntp(8)コマンド	優先サーバを設定するための、以下のオプションが追加されます。 -m prefer= <i>value</i> 詳細については、setntp(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。
	setssh(8)コマンド	DSCP を経由した、ドメインからSSH サービスへのアクセスに関する、以下のオプションが追加されます。 -m dscp= <i>mode</i> 詳細については、setssh(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。

表 12 ソフトウェアマニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000サーバ XSCF リファレンスマニ ュアル	showdomainmod e(8)コマンド	MACアドレスを含む詳細な情報を表示するための-vオプションが追加されます。 詳細については、showdomainmode(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。
	showenvironme nt(8)コマンド	消費電力を表示するためのpowerオペランドが追加されます。 詳細については、showenvironment(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。
	showenvironme nt(8)コマンド	排気量を表示するためのairオペランドが追加されます。 詳細については、showenvironment(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。
	showntp(8)コマ ンド	優先サーバの有無を表示させるための-mオプションが追加されます。詳細については、showntp(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。
	showssh(8)コマ ンド	SSHサービスの表示に関する説明が追加されます。詳細については、showssh(8) コマンドのマニュアルページを参照してください。
	traceroute(8) コマンド	ユーザー権限内の以下の記述は削除されます。 <ul style="list-style-type: none"> DSCP アドレスに対して実行する場合 fieldeng <p>オペランド内の記述に、以下の内容が追加されます。 DSCPアドレスを指定した場合はエラーとなります。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/ M9000サーバ Dynamic Reconfiguration (DR) ユ ーザーズガイド	A-18	「A.1.3 警告メッセージ」に、以下のメッセージが追加されます。 SCF OFFLINE [説明] カーネルメモリボードマイグレーション中に、XSCFの故障、またはフェイルオーバーが発生しました。 [対処方法] XSCFに再度ログインして、XSCFの状態を確認してから、DRを再実行してください。

システム内の縮退メモリの識別

1. XSCFにログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showstatus
```

以下は、メモリボード#5上のDIMM番号0Aのメモリが縮退された例を示しています。

```
XSCF> showstatus
      MBU_B Status:Normal;
      MEMB#5 Status:Normal;
*     MEM#0A Status:Degraded;
```

システムボード上の異なるメモリサイズの識別

ドメイン内に異なるメモリサイズのシステムボードが含まれているかを確認する場合は、以下のどちらかのコマンドを使用して、メモリサイズをリスト表示させることができます。

- XSCF上でshowdevices(8)コマンドを使用する
- ドメイン上でprtdiag(1M)コマンドを使用する

showdevicesコマンドを使用する

1. XSCFにログインします。

2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

以下は他のシステムボードが 16GB のメモリを搭載しているのに対して、システムボード 00-0 は 64GB のメモリを搭載している例を示しています。

```
XSCF> showdevices -d 1
Memory:
-----

```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
01	00-0	63680	0	0x0000004000000000	260288			
01	01-0	16384	7384	0x0000034000000000	260288			
01	01-1	16384	0	0x0000030000000000	260288			
01	01-2	16384	0	0x000002c000000000	260288			
01	01-3	16384	0	0x0000028000000000	260288			

```
...
```

prtdiag コマンドを使用する

- ドメイン上で、prtdiag コマンドを使用します。

```
# prtdiag
```

以下は異なるメモリサイズを表示した例を示しています。

```
# prtdiag
===== Memory Configuration =====

```

LSB	Memory Group	Available Size	Memory Status	DIMM Size	# of DIMMs	Mirror Mode	Interleave Factor
00	A	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
00	B	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
01	A	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
01	B	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
03	A	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way
03	B	8192MB	okay	2048MB	4	no	2-way

```
...
```

ターゲットボードのカーネルメモリの識別

1. XSCFにログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -dコマンドの出力を示したもので、0はdomain_idです。

```
XSCF> showdevices -d 0

...

Memory:
-----

```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
00	00-0	8192	0	0x0000000000000000	24576			
00	00-2	8192	1674	0x000003c000000000	24576			
00	00-3	8192	0	0x0000034000000000	24576			

```
...
```

4列目の「perm mem MB」のエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、1674MBのカーネルメモリが00-2にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合、deleteboard(8)コマンドまたはmoveboard(8)コマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

CPUのアップグレード

ここでは、SPARC Enterprise M4000/M5000サーバにSPARC64 VIIプロセッサを搭載する手順について説明します。

- 「SPARC64 VIIのCPUモジュールを新規ドメインとして増設する」
- 「SPARC64 VIのCPUモジュールをSPARC64 VIIのCPUモジュールへアップグレードする」
- 「SPARC64 VIIのCPUモジュールを増設し、既存ドメインへ追加する場合」

注 – ファームウェアをXCP 1071以降へアップグレードする前に、4ページの「[XCP 1082へのアップデート](#)」を参照してください。



注意 – SPARC64 VII プロセッサを本体装置にインストールする前に、XCP ファームウェアおよび Solaris OS のアップデートを完了させておいてください。

SPARC64 VIIのCPUモジュールを新規ドメインとして増設する

1. プラットフォーム管理権限をもつアカウントで、XSCFにログインします。
2. `showstatus(8)` コマンドを使用して、FaultedまたはDeconfiguredの状態にあるコンポーネントが存在していないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

問題が見つからなければ、「No failures found in System Initialization」のメッセージが表示されます。上記以外が表示された場合は、次の手順に進む前に当社技術員にご連絡ください。

3. すべてのドメインの電源を切断します。

```
XSCF> poweroff -a
```

4. すべてのドメインが停止していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

5. オペレーターパネルのキー位置をLockedからServiceに変更します。

6. XSCF snapshotを採取し、アップデート前のシステムの状態をアーカイブします

この情報は、アップデート中に問題が発生した場合の原因解析に役立ちます。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

7. XCPの版数を1071以降にアップデートします。

XCPをアップデートする前には、必ず4ページの「[XCP 1082へのアップデート](#)」をお読みください。XCPのアップデート手順については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

8. CPUモジュール(CPUM)を、本体装置に搭載します。

搭載方法については、『SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ サービスマニュアル』の第12章「CPUモジュールの交換」にある、CPUモジュールの取り付けに関する内容を参照してください。



注意 – CPUモジュールを搭載したあとは、電源ケーブルの接続までを実施してください。

9. XSCFにログインします。

10. 搭載されたCPUモジュールを診断し、正常な状態になっていることを確認します。

実行例: M5000サーバのPSB#01を増設した場合

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start. Continue? [y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB Test      Fault
-----
01  Passed Normal
```

11. 搭載されたCPUモジュールがサーバに認識され、異常を示すアスタリスク(*)が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

12. showlogs error -vおよびshowstatus(8)コマンドを使用して、異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

ハードウェアに何らかの異常を見つけた場合は、当社技術員にご連絡ください。

13. オペレータパネルのキースイッチ位置をServiceからLockedに戻します。

14. 既存のドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -a
```

15. 増設したCPUモジュールに対して、以下の設定を行います。

- 増設したCPUモジュールのXSBの設定
- ドメインの構築
- ドメインのCPU動作モードの設定

各設定については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

16. setdomainmode(8)コマンドを使用して、ドメインのオートブート機能を無効にします。

詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

17. 追加したドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -d domain_id
```

18. ドメインが正しく起動されたことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

19. showlogs error -vおよびshowstatus(8)コマンドを使用して、異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

ハードウェアに何らかの異常を見つけた場合は、当社技術員にご連絡ください。

20. Solaris10 5/08以降をインストールします。

21. setdomainmode(8)コマンドを使用して、ドメインのオートブート機能を有効にします。

詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。設定したオートブート機能はドメインを再起動したあとに有効となります。

SPARC64 VIのCPUモジュールをSPARC64 VIIのCPUモジュールへアップグレードする

1. Solaris OSのバージョンがSolaris10 8/07の場合、Solaris10 5/08にアップグレードインストールするか、または2ページの「[Solarisパッチに関する情報](#)」に記載されている必須パッチを適用します。
2. SPARC64 VIIプロセッサを使用するにあたって、使用しているソフトウェアへパッチを適用する必要がある場合は、該当するパッチを適用します。
3. プラットフォーム管理権限をもつアカウントで、XSCFにログインします。
4. `showstatus(8)` コマンドを使用して、FaultedまたはDeconfiguredの状態にあるコンポーネントが存在していないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

問題が見つからなければ、「No failures found in System Initialization」のメッセージが表示されます。上記以外が表示された場合は、次の手順に進む前に当社技術員にご連絡ください。

5. すべてのドメインの電源を切断します。

```
XSCF> poweroff -a
```

6. 対象のドメインが停止していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

7. オペレーターパネルのキー位置をLockedからServiceに変更します。
8. XSCF snapshotを採取し、アップデート前のシステムの状態をアーカイブします
この情報は、アップデート中に問題が発生した場合の原因解析に役立ちます。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

9. XCPの版数を1071以降にアップデートします。
XCPをアップデートする前には、必ず4ページの「[XCP 1082へのアップデート](#)」をお読みください。XCPのアップデート手順については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。
10. XSCFへログインします。

11. すべてのドメインの電源を投入し、OpenBoot PROMファームウェアを適用します。

```
XSCF> poweron -a
```

okプロンプトで停止します。ここでは、Solaris OSを起動する必要はありません。

12. 適用されたOpenBoot PROMのバージョンを確認します。

XCP 1082のOpenBoot PROM版数は02.09.0000です。

```
XSCF> version -c cmu -v
```

```
DomainID 00 : 02.03.0000
DomainID 01 : 02.03.0000
DomainID 02 : 02.09.0000
DomainID 03 : 02.09.0000
```

```
XSB#00-0 : 02.03.0000 (Current), 02.02.0000 (Reserve)
XSB#00-1 : 02.03.0000 (Current), 02.02.0000 (Reserve)
XSB#00-2 : 02.03.0000 (Current), 02.02.0000 (Reserve)
XSB#00-3 : 02.03.0000 (Current), 02.02.0000 (Reserve)
XSB#01-0 : 02.03.0000 (Reserve), 02.09.0000 (Current)
XSB#01-1 : 02.03.0000 (Reserve), 02.09.0000 (Current)
XSB#01-2 : 02.03.0000 (Reserve), 02.09.0000 (Current)
XSB#01-3 : 02.03.0000 (Reserve), 02.09.0000 (Current)
```

すべてのドメインおよびXSBの、OpenBoot PROM版数が02.09.0000と表示されない場合は、当社技術員にご連絡ください。

13. すべてのドメインの電源を切断します。

```
XSCF> poweroff -a
```

14. 搭載されたSPARC64 VIプロセッサをSPARC64 VIIプロセッサへアップグレードします。

搭載方法については、『SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ サービスマニュアル』の第12章「CPU モジュールの交換」を参照してください。



注意 – CPU モジュールを搭載したあとは、電源ケーブルを電源に接続した状態にしておいてください。

15. XSCFにログインします。

16. 搭載されたCPUモジュールを診断し、正常な状態になっていることを確認します。
実行例: M5000サーバのPSB#01を増設した場合

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start. Continue? [y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB Test      Fault
-----
01  Passed  Normal
```

17. 搭載されたCPUモジュールがサーバに認識され、異常を示すアスタリスク(*)が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

18. `showlogs error -v`および`showstatus(8)`コマンドを使用して、異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

ハードウェアに何らかの異常を見つけた場合は、当社技術員にご連絡ください。

19. オペレーターパネルのキースイッチ位置をServiceからLockedに戻します。
20. 対象のドメインのCPU動作モードを設定および確認します。

詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

21. すべてのドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -a
```

22. 対象のドメインが正しく起動されたことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

23. `showlogs error -v`および`showstatus(8)`コマンドを使用して、異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

ハードウェアに何らかの異常を見つけた場合は、当社技術員にご連絡ください。

SPARC64 VIIのCPUモジュールを増設し、既存ドメインへ追加する場合

1. Solaris OSのバージョンがSolaris10 8/07の場合、Solaris10 5/08にアップグレードインストールするか、または2ページの「[Solarisパッチに関する情報](#)」に記載されている必須パッチを適用します。
2. SPARC64 VIIプロセッサを使用するにあたって、使用しているソフトウェアへパッチを適用する必要がある場合は、該当するパッチを適用します。
3. プラットフォーム管理権限をもつアカウントで、XSCFにログインします。
4. `showstatus(8)` コマンドを使用して、FaultedまたはDeconfiguredの状態にあるコンポーネントが存在していないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

問題が見つからなければ、「No failures found in System Initialization」のメッセージが表示されます。上記以外が表示された場合は、次の手順に進む前に、当社技術員にご連絡ください。

5. CPUモジュールを追加するドメインの電源を切断します。

```
XSCF> poweroff -d domain_id
```

6. 対象のドメインが停止していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

7. オペレーターパネルのキー位置をLockedからServiceに変更します。
8. XSCF snapshotを採取し、アップデート前のシステムの状態をアーカイブします
この情報は、アップデート中に問題が発生した場合の原因解析に役立ちます。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

9. XCPの版数を1071以降にアップデートします。

XCPをアップデートする前には、必ず4ページの「[XCP 1082へのアップデート](#)」をお読みください。XCPのアップデート手順については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

10. XSCFへログインします。

11. 対象のドメインの電源を投入し、OpenBoot PROMファームウェアをアップデートします。

```
XSCF> poweron -d domain_id
```

okプロンプトで停止します。ここでは、OSを起動する必要はありません。

12. アップデートされたOpenBoot PROM版数を確認します。

XCP 1082のOpenBoot PROM版数は02.09.0000です。

```
XSCF> version -c cmu -v

DomainID 00 : 02.03.0000
DomainID 01 : 02.03.0000
DomainID 02 : 02.09.0000
DomainID 03 : 02.09.0000

XSB#00-0 : 02.03.0000 (Current), 02.02.0000 (Reserve)
XSB#00-1 : 02.03.0000 (Current), 02.02.0000 (Reserve)
XSB#00-2 : 02.03.0000 (Current), 02.02.0000 (Reserve)
XSB#00-3 : 02.03.0000 (Current), 02.02.0000 (Reserve)
XSB#01-0 : 02.03.0000 (Reserve), 02.09.0000 (Current)
XSB#01-1 : 02.03.0000 (Reserve), 02.09.0000 (Current)
XSB#01-2 : 02.03.0000 (Reserve), 02.09.0000 (Current)
XSB#01-3 : 02.03.0000 (Reserve), 02.09.0000 (Current)
```

すべてのドメインおよびXSBの、OpenBoot PROM版数が02.09.0000と表示されない場合は、当社技術員にご連絡ください。

13. すべてのドメインの電源を切断します

```
XSCF> poweroff -a
```

14. CPUモジュール(CPUM)を、本体装置に搭載します。

搭載方法については、『SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ サービスマニュアル』の第12章「CPUモジュールの交換」にある、CPUモジュールの取り付けに関する内容を参照してください。



注意 – CPUモジュールを搭載したあとは、電源ケーブルを電源に接続した状態にしておいてください。

15. XSCFにログインします。

16. 搭載されたCPUモジュールを診断し、正常な状態になっていることを確認します。

実行例: M5000サーバのPSB#01を増設した場合

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start. Continue? [y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB  Test      Fault
-----
01   Passed   Normal
```

17. 搭載されたCPUモジュールがサーバに認識され、異常を示すアスタリスク(*)が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

18. `showlogs error -v`および`showstatus(8)`コマンドを使用して、異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

ハードウェアに何らかの異常を見つけた場合は、当社技術員にご連絡ください。

19. オペレータパネルのキースイッチ位置をServiceからLockedに戻します。

20. 増設したCPUモジュールに対して、以下の設定を行います。

- XSBの設定
- LSBの設定
- ドメインへのXSBの追加
- ドメインのCPU動作モードの設定

各設定については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

21. すべてのドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -a
```

22. 対象のドメインが正しく起動されたことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

23. `showlogs error -v`および`showstatus(8)`コマンドを使用して、異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

ハードウェアに何らかの異常を見つけた場合は、当社技術員にご連絡ください。

